

令和7年度歯学部行事予定表

— 前 期 —

学年開始	4月 1日 (火)
入学式	4月 2日 (水)
新入生学部オリエンテーション	4月 3日 (木)
授業開始 (1年)	4月 7日 (月)
授業開始 (2～6年)	4月 1日 (火)
臨床開始前実習 (5年)	5月 2日 (火) ～ 10月2日 (木)
C B T (5年)	6月12日 (木)
O S C E (5年)	7月12日 (土)
定期試験時間割発表	7月10日 (木)
授業終了 (1年)	7月29日 (火)
授業終了 (2～4年)	7月28日 (月)
授業終了 (5年)	7月18日 (金)
定期試験期間 (1年)	8月 4日 (月) ～ 5日 (火)
定期試験期間 (2～4年)	7月23日 (水) ～ 8月4日 (月)
定期試験期間 (5年)	8月18日 (月) ～ 22日 (金)
夏季休業 (1年)	8月 6日 (水) ～ 9月26日 (金)
夏季休業 (2～4年)	8月 5日 (火) ～ 9月26日 (金)
夏季休業 (5年)	7月22日 (火) ～ 8月15日 (金)
	8月25日 (月) ～ 9月22日 (月)
C B T 追再試験 (5年)	8月 5日 (火)
O S C E 追再試験 (5年)	8月23日 (土)
追試験時間割発表 (1年)	8月 8日 (金)
追試験時間割発表 (2～4年)	8月 7日 (木)
追試験時間割発表 (5年)	8月25日 (月)
追試験期間 (1年)	8月18日 (月) ～ 19日 (火)
追試験期間 (2～4年)	8月18日 (月) ～ 19日 (火)
追試験期間 (5年)	8月26日 (火) ～ 27日 (水)
再試験期間 (1年)	8月25日 (月) ～ 26日 (火)
再試験期間 (2～4年)	8月25日 (月) ～ 27日 (水)
再試験期間 (5年)	9月 1日 (月) ～ 3日 (水)
前期成績発表	10月の指定する日

— 後 期 —

授業開始	9月29日（月）
臨床実習（5年）	10月 6日（月）～翌年度9月末
解剖体慰霊祭	10月23日（木）
歯学部祭	11月上旬～中旬頃
冬季休業（1～4年）	12月24日（水）～1月2日（金）
定期試験時間割発表	1月16日（金）
授業終了（1年）	2月 2日（月）
授業終了（2～4年）	2月 2日（月）
定期試験期間（1年）	2月 3日（月）、9日（月）
定期試験期間（2～4年）	2月 3日（火）～9日（月）
追試験時間割発表（1年）	2月 6日（金）
追試験時間割発表（2～4年）	2月10日（火）
追試験期間（1年）	2月10日（火）、16日（月）
追試験期間（2～4年）	2月12日（木）～13日（金）
再試験期間（1年）	2月17日（火）、24日（火）
再試験期間（2～4年）	2月18日（水）～20日（金）
卒業式	3月25日（水）
学年終了	3月31日（火）
後期成績発表	3月の指定する日

令和7年度歯学部カレンダー(2～4年次)

前期:4月1日(火)～8月4日(月)

1Q:4月1日～6月3日(5月28～30日を除く)

2Q:5月28日～8月4日(6月2, 3日を除く)

	日	月	火	水	木	金	土
R7年 4月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
5月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
7月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
8月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
9月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	後期29	後期30				
回数	-	15	15	15	15	15	-

後期:9月29日(月)～2月9日(月)

3Q:9月29日～12月1日(11月26～28日を除く)

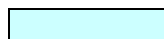
4Q:11月26日～2月9日(12月1日は除く)

	日	月	火	水	木	金	土
9月	28	29	30	1	2	3	4
10月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
12月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
R7年 1月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
回数	-	15	15	15	15	15	-

注:9月29日(月)は後期の授業開始日



休業日等(1/20(火)は共通テスト試験監督等振替、1/23(金)は学校推薦型選抜Ⅱ当日)



授業日



補講日(補講を実施しない場合は定期試験日として利用可能)



振替日:11/4(火)は月曜日の授業を実施



定期試験日



追試験日



再試験日

(令和7年度)歯学部授業時間割
(前期)(1Q・2Q)

曜日	校時	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ								
		8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50							
年次		8:50	9:50	10:00	11:00	11:10	12:10	13:00	14:00	14:10	15:10	15:20	16:20	16:30	17:30	17:40	18:40	
月	1	歯科学のための物理科学(講3B)		細胞生物学入門Ⅰ(講3B)		歯学展望(講3B)		骨学及び同実習(歯解実・講3B・医2講・医1実)						初年次セミナー(文教・坂本)				
	2	教養教育					教養教育(全学モジュールⅡ)					教養教育						
	3		微生物学・口腔微生物学(講3A)					薬理学及び同実習(講3A・実5C)										
	4	歯科矯正学及び同実習(講6A・臨4B)					予防歯科学及び同実習(講6A・臨4B)						基礎歯学研究					
	5	統合科目(講6B)																
	6	臨床実習													基礎歯学輪講(講3A)			
火	1	(1Q)学内・学外早期体験実習/(2Q)歯科医師のコンピテンシーⅠ(講3B)					細胞生物学プラクシス(講3B)					初年次セミナー(文教・坂本)						
	2	教養教育					教養教育(全学モジュールⅡ)					教養教育						
	3	薬理学及び同実習(講3A・実5C)		(1Q)微生物学・口腔微生物学(講3A)／(2Q)病理学総論及び同実習(講3A・実5B)				病理学総論及び同実習(講3A・実5B)										
	4	歯科矯正学及び同実習(講6A)			保存修復学(講6A)				保存修復学実習(臨4B)									
	5	統合科目(講6B)															歯学研究	
	6	臨床実習																
水	1	教養教育																
	2	生理学(講3B)/生理学実習(実5C)																
	3	歯科理工学Ⅰ/歯科理工学Ⅱ/歯科理工学Ⅲ(講3A)					口腔組織学及び同実習(講3A・実5B)											
	4	(1Q)災害口腔医学/(2Q)小児歯科学・小児歯科学実習(講6A)			歯内治療学(講6A)				歯内治療学実習(臨4B)									
	5	統合科目(講6B)																
	6	臨床実習													歯学研究			
木	1	教養教育																
	2	解剖学及び同実習(講3B・歯解実)								歯科医師のコンピテンシーⅡ(講3B)								
	3	内科学総論(講3A)					歯科東洋医学(講3A)／Scientific and Practical English(講3A)											
	4	障害者歯科学(講6A)			歯科医師のコンピテンシーⅣ(講6A)				冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)									
	5	統合科目(講6B)																
	6	臨床実習																
金	1	教養教育																
	2	生化学(講3B)			発生学(講3B)		生理学(講3B)/生理学実験(実5C)											
	3	外科学総論(講3A)		口腔解剖学及び同実習(歯解実・講3A)				コミュニティー教育・実習(講3A)					(1Q)基礎歯学研究概論(講3A)／(2Q)基礎歯学研究					
	4	歯科麻酔学及び同実習(講6A)										有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)						
	5	統合科目(講6B)																
	6	臨床実習													基礎歯学輪講(講3A)			

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A(C棟3階)
講2・・・講義室3B(C棟3階)
講6A・・・講義室6A(C棟6階)
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)
実5B・・・実習室5B(C棟5階)
実5C・・・実習室5C(C棟5階)
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)
医2講・・・医学部第2講義室
医1実・・・医学部第1実習室

時間割

90分授業

1校時 8:50-10:20
2校時 10:30-12:00
3校時 13:00-14:30
4校時 14:40-16:10
5校時 16:20-17:50

60分授業

1校時 8:50-9:50
2校時 10:00-11:00
3校時 11:10-12:10
4校時 13:00-14:00
5校時 14:10-15:10
6校時 15:20-16:20
7校時 16:30-17:30
8校時 17:40-18:40

(令和7年度)歯学部授業時間割
(後 期)(3Q・4Q)

曜日	校時 年次	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ									
		8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50								
		1		2		3		4		5		6		7		8			
月	1		細胞生物学入門Ⅱ(講3B)		歯学展望(講3B)														
	2	長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)					長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(オンライン自主学習)												
	3	内科学各論(講3A)			微生物学・口腔微生物学(講3A)		外科学各論(講3A)				隣接医学Ⅱ(講3A)								
	4	歯周病学(講6A)			統合科目(スポーツ歯学)／ 統合科目(総合歯科学Ⅰ) (講6A)		歯周病学実習(臨4B)						基礎歯学研究						
	5	臨床実習																	
	6	臨床実習／高次口腔医療学												(3Q) 歯科医療管理学(講3A)					
火	1		学内・学外早期体験実習(講3B)																
	2	長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)					生化学実験(実5A)												
	3	(3Q)医学統計学／(4Q)コンピ テンシーⅢ(講3A)	口腔病理学及び同実習(講3A・実5B)																
	4	統合科目〈臨床解剖学〉(講6A・歯解実・医解実)					口腔外科学Ⅰ及び同実習(講6A・臨4B)					実践臨床歯科英会話(講6A)							
	5	臨床実習												(3Q)コンピテンシーⅤ ／臨床歯学セミナー(講6B)					
	6	臨床実習／高次口腔医療学												(3Q) 歯科医療管理学(講3A)					
水	1	教養教育																	
	2	(3Q)長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)					(3Q)長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(オンライン自主学習)												
		(4Q)解剖学及び同実習(講6B・歯解実・医解実)																	
	3	隣接医学Ⅰ・Ⅱ(講3A)			(3Q)歯科理工学実験(講3A・実5C)												(4Q)隣接医学Ⅱ(講3A)		
	4	高齢者歯科学(講6A)			小児歯科学／小児歯科学実習(講6A・臨4B)														
	5	臨床実習												歯学研究					
6	臨床実習／高次口腔医療学												(3Q) 歯科医療管理学(講3B)						
木	1	教養教育(プラネタリーヘルスⅠ)					教養教育												
	2	解剖学及び同実習(講6B・歯解実・医解実)																	
	3	(3Q)隣接医学Ⅲ(講3A)	(3Q)口腔微生物学実習(講3A・実5A)										隣接医学Ⅰ(講3A)						
		(4Q)隣接医学Ⅰ・Ⅱ(講3A)			(4Q)衛生学及び同実習(講3A・実5A)														
	4	歯科放射線学及び同実習(講6A)					冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)					臨床歯学研究概論(講6A)							
	5	臨床実習																	
6	臨床実習／高次口腔医療学												(3Q) 歯科医療管理学(講3B)						
金	1	教養教育(プラネタリーヘルスⅠ)					教養教育												
	2	組織学及び同実習(講6B・実5B)																	
	3	歯科薬理学(講3A)／口腔生理学(講3A)					口腔生化学(講3A)			基礎歯学研究									
	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習(講6A・臨4B)					有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)												
	5	臨床実習／ 医哲学・医療倫理(医学部記念講堂)(9/26(金)・10/17(金)の2日間)																	
	6	臨床実習／高次口腔医療学												(3Q) 歯科医療管理学(講3B)					

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A(C棟3階)
講3B・・・講義室3B(C棟3階)
講6A・・・講義室6A(C棟6階)
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)
実5B・・・実習室5B(C棟5階)
実5C・・・実習室5C(C棟5階)
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)
医解実・・・医学部解剖実習室
医講4・・・医学部第4講義室(病院2階)

時間割

90分授業
1校時 8:50-10:20
2校時 10:30-12:00
3校時 13:00-14:30
4校時 14:40-16:10
5校時 16:20-17:50

60分授業
1校時 8:50-9:50
2校時 10:00-11:00
3校時 11:10-12:10
4校時 13:00-14:00
5校時 14:10-15:10
6校時 15:20-16:20
7校時 16:30-17:30
8校時 17:40-18:40

総合科目（1 年次生～5 年次生）

（１）学内・学外早期体験実習	（1 年）・・・・・・・・・・・・・ 2
（２）学内・学外早期体験実習	（1 年）・・・・・・・・・・・・・ 5
（３）歯学展望	（1 年）・・・・・・・・・・・・・ 8
（４）コミュニティー教育・実習	（3 年）・・・・・・・・・・・・・ 12
（５）歯科東洋医学	（3 年）・・・・・・・・・・・・・ 15
（６）Scientific and Practical English	（3 年）・・・・・・・・・・・・・ 18
（７）歯科医師のコンピテンシーⅠ	（1 年）・・・・・・・・・・・・・ 21
（８）歯科医師のコンピテンシーⅡ	（2 年）・・・・・・・・・・・・・ 23
（９）歯科医師のコンピテンシーⅢ	（3 年）・・・・・・・・・・・・・ 25
（10）歯科医師のコンピテンシーⅣ	（4 年）・・・・・・・・・・・・・ 28
（11）歯科医師のコンピテンシーⅤ	（5 年）・・・・・・・・・・・・・ 31

年度 2025	学期 前期	曜日・校時 金 4～5 (一部5～6)	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25064408			
科目ナンバリング・コード	DNGD11041098			
授業科目名/(英語名)	コミュニティー教育・実習/(Community education・practice)			
対象年次 3年次	講義形態	講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)			科目分類 総合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	非常勤講師(岡幸江、西川研、山口和浩、片山健太、岩本諭)			
授業の概要及び位置づけ				
本授業が提案するのは現代において分断された仕事と価値意識を「つなぐ」知であり、それによる「全体的視野の獲得」です。他の歯学部授業のなかでは経験できない、みなさんの経験に基づく思考と学びの時間の提供を、意識していきます。				
授業到達目標				
一般目標 GIO: コミュニティにおける多様な人々との対話の重要性を理解し、対話に臨みその力量を形成していく構えを身に着ける				
個別行動目標 SBOs				
1 多様な価値観を持つ人で形成される、コミュニティとは何かを提起する A-4-1-①,②				
2 異なる経験を持つ人の生きざまを想起し、その社会的位置にへの新たな認識を獲得する A-4-1-①,②				
3 コミュニティのかかわりの中に生きる自己を新たに認識する A-4-1-①,②				
4 スキル的に獲得する知にとどまらない、対話と経験から獲得する知を理解する A-4-1-①,②				
5 対話への新たな経験と、さらなる対話への構えを獲得する A-4-1-①,②				
6 市民としての歯科医師のありようについて考える A-4-1-①,②				
対応するディプロマポリシー				
DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP8: 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。 DP9: 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。				
授業方法(学習指導法)				
本講義では、みなさん自身の日々の生活のなかから「暮らしのまなざし」や暮らしをなりたせる「関わりのまなざし」をほりおこしていくことからスタートします。そのうえで、実社会において困難をかかえる人・困難をかかえる地域とむきあうとくみ、こうした「実践」の底に流れる「もうひとつの知」について提示していきます。授業のなかでは、そうした提示をどう受け止め合うのかをお互いに交し合うための工夫にも、皆さんとの対話を通して、可能なかぎりとりくんでいきます。				
授業内容				
第 1 回目 5 月 9 日 4-5 時限目:オリエンテーション ー社会を感じる・隣人を感じる(担当:岡幸江(九州大学))				
第 2 回目 5 月 9 日 5-6 時限目:暮らしとしてのボランティア ー山本いま子さんの姿から(担当:岡)				
第 3 回目 5 月 16 日 4-5 時限目:対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い (担当:西川研(長崎県聴覚障害者情報センター))				
第 4 回目 5 月 23 日 4-5 時限目:生と死にむきあう(担当:山口和浩(NPO 法人自死遺族支援ネットワーク Re 代表))				
第 5 回目 5 月 30 日 4-5 時限目:かっちえてという場と子どもたち (担当:片山健太(自然と暮らしの学校「手つなぐ」))				
第 6 回目 6 月 6 日 4-5 時限目:仲間とともに「日常」をつくる(担当:岩本諭(斜面地・空き家活用団体つくる代表))				
第 7 回目 6 月 13 日 4-5 時限目:未来への地域のつながりの変化を考える(担当:岡、片山)				
第 8 回目 6 月 13 日 5-6 時限目:振り返りとシェア(担当:岡、片山、岩本)				
キーワード	実践における「もうひとつの知」			
教科書・教材・参考書	教科書 なし			

成績評価の方法・基準等	出席、レポートで評価する。(レポートの評価は教務委員長が行う。)
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・西川 研(第 3 回)／手話通訳士としての活動／手話通訳士としての活動経験や体験をもとに講義を実施する。 ・山口 和浩(第4回)／NPO 法人における自殺対策、遺族支援等の活動／NPO 補人での活動経験や体験を基に講義を実施する。 ・片山 健太(第 5,7,8 回)／NPO法人等における子ども・大人の場づくり活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する。 ・岩本 諭(第 6,8 回)／NPO 法人におけるまちづくり支援活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	9	金	4-5	オリエンテーションー社会を感じる・隣人を感じる	岡	講義室3A
2回	5	9	金	5-6	暮らしとしてのボランティアー山本いま子さんの姿から	岡	講義室3A
3回	5	16	金	4-5	対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い	西川	講義室3A
4回	5	23	金	4-5	生と死に向き合う	山口	講義室3A
5回	5	30	金	4-5	かっちえてという場と子どもたち	片山	講義室3A
6回	6	6	金	4-5	仲間とともに「日常」をつくる	岩本	講義室3A
7回	6	13	金	4-5	未来への地域のつながりの変化を考える	岡、片山	講義室3A
8回	6	13	金	5-6	振り返りとシェア	岡、片山、 岩本	講義室3A

4限:13:00～14:00 、 5限:14:10～15:10

年度 2025 学期 1・2Q		曜日・校時 木・3－7(時間割を参照)		必修選択 必修		単位数 1	
科目番号		25064409					
科目ナンバリング・コード		DNGD11051941					
授業科目名/(英語名)		歯科東洋医学/(Oriental Dental Medicine)					
対象年次 3 年次			講義形態 講義形式		教室 講義室 3A		
対象学生(クラス等)				科目分類		総合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと							
担当教員(オムニバス科目等)		角 忠輝, 前川靖裕(非常勤講師), 亀山敦史(非常勤講師), 多田浩晃, 池田裕明(腫瘍医学), 林 眞実(非常勤講師), 戸田一雄(非常勤講師), 田頭澄人(非常勤講師), 筑波隆幸, 坂井詠子, 最上祥子(非常勤講師)					
授業の概要 東洋医学では、人は大自然(大宇宙)のなかの一つで、自然界のすべてのものと、お互いに関連し、影響しあっているとみなしている。西洋医学では、組織、器官はそれぞれ独立して異なるものとするが、東洋医学では、異なった機能を持ちながらも全体として有機的につながりをもった共有体とされている。その根底となる思想が陰陽論と五行論である。このような東洋医学の理論的背景を認識しつつ実際の東洋医学的治療法の主な方法を、座学および体験を通して学習する。							
授業到達目標 一般目標 GIO: 患者満足度の高い良質な歯科医療を提供するために、東洋医学の概念を西洋医学に対比して理解し、統合医療を実践するために必要な基本的知識、および態度を修得する。 個別行動目標 SBOs: 1. 東洋医学体系の基礎理論と診断法を説明できる。 2. 各種東洋医学的治療法(鍼灸・漢方)のメカニズムを説明できる。 3. エイジングや免疫に及ぼす東洋医学的治療法の役割を説明できる。 4. 経絡および歯科領域で重要な経穴の部位を列挙し、説明できる。 5. 漢方の歴史的背景に関心を持つ。 6. 各種代替医療を列挙し、その概要を説明できる。							
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 (直接該当するコアカリ番号は無いが平成 28 年度より「薬物」の定義に(和漢薬を含む)と付記されている) C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 C-6-2) 薬理作用 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用							
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。							
授業方法(学習指導法) 輪講形式。スライド、ビデオ等を用いて講義する。必要に応じて実地学習を取り入れる。プリント等は必要な時に配布する。アクティブラーニングにおいては、グループ学習の他、発表討論を行う。							
授業内容 1 回目 統合医療学総論 2 回目 日本人は何故冷え性になったのか? 1 3 回目 日本人は何故冷え性になったのか? 2 4 回目 補完代替医学1 5 回目 補完代替医学2 6 回目 先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング) 1 7 回目 がん免疫治療の最前線 8 回目 先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング) 2 9 回目 先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング) 3 10 回目 薬膳料理1 11 回目 薬膳料理2 12 回目 耳鍼法, アロマセラピー 13 回目 鍼鎮痛のメカニズム 14 回目 歯科鍼灸 15 回目 鍼灸の実際 16 回目 抗加齢科学 17 回目 漢方薬理 18 回目 漢方最前線							
キーワード		東洋医学, 伝統医学, 代替医学, 統合医療, 鍼, 灸, 漢方, 薬膳, アロマセラピー, EBM					

教科書・教材・参考書	参考書： 歯科漢方医学, 歯科漢方医学教育協議会監修, 永末書店 続今日からあなたも口腔漢方医, 王宝禮・王龍三編, 医歯薬出版 入門歯科東洋医学(第2版), 日本歯科東洋医学会編
成績評価の方法・基準等	出席率, 講義内の小テスト, アクティブラーニングへの参加態度, および筆記試験またはレポートにより総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の3分の2に達しない場合, 成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	東洋医学関係の一般書に目を通しておくことが望ましい。学外講師による講義は日頃接することのできない貴重な機会であり, 礼を失することが無いように心がけること。
実務経験のある教員による授業科目	・角 忠輝(第1回)/大学病院における歯科診療行為/自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている ・前川 靖裕(第2・3回)/診療所における診療行為/自らの診療経験を元に, 漢方の概念について講義形式の授業を行っている ・亀山 敦史(第4・5回)/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に統合医療の概念と実際について講義形式の授業を行っている ・多田 浩晃(第6・8・9回)/大学病院等における診療行為/大学病院における歯科診療行為自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている ・池田 裕明(第7回)/大学病院等における診療行為/自らの診療経験を元に, がん免疫治療についての講義を行っている。 ・田頭 澄人(第15回)/歯科診療所における歯科診療行為/鍼灸師の資格を持つ当該教員が, 鍼灸理論・実際の歯科医療への応用について実習形式で授業を行っている。 ・最上祥子(第18回)/研究職/製薬会社での研究職の経験を活かし, 漢方薬理の基本について講義形式の授業を行っている。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	8	木	3	統合医療学総論	角 忠輝	講義室3A
2回	5	14	水	6	日本人は何故冷え性になったのか？1	前川靖裕	講義室3A
3回	5	14	水	7	日本人は何故冷え性になったのか？2	前川靖裕	講義室3A
4回	5	15	木	4	補完代替医学1	亀山敦史	講義室3A
5回	5	15	木	5	補完代替医学2	亀山敦史	講義室3A
6回	5	15	木	6	先人から学ぶ漢方の知恵1	多田浩晃	講義室3A
7回	5	22	木	3	がん免疫治療の最前線	池田裕明	講義室3A
8回	5	29	木	4	先人から学ぶ漢方の知恵2	多田浩晃	講義室3A
9回	5	29	木	5	先人から学ぶ漢方の知恵3	多田浩晃	講義室3A
10回	6	5	木	4	薬膳料理1	林 眞実	講義室3A
11回	6	5	木	5	薬膳料理2	林 眞実	講義室3A
12回	6	19	木	4	耳鍼法、アロマセラピー	戸田一雄	講義室3A
13回	6	19	木	5	鍼鎮痛のメカニズム	戸田一雄	講義室3A
14回	6	19	木	6	歯科鍼灸	戸田一雄	講義室3A
15回	6	19	木	7	鍼灸の実際	田頭澄人	講義室3A
16回	6	26	木	4	抗加齢科学	筑波隆幸	講義室3A
17回	6	26	木	5	漢方薬理	坂井詠子	講義室3A
18回	7	3	木	4	漢方最前線	最上祥子	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q		曜日・校時 木・3 ～7		必修選択	必修	単位数	2
科目番号		25064417					
科目ナンバリング・コード		DNGD11031098					
授業科目名/(英語名)		Scientific and Practical English					
対象年次 3 年次			講義形態 講義形式		教室 講義室 3A		
対象学生(クラス等)				科目分類 総合科目			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /生体材料科学分野教授室/095-819-7656(内 7656) /授業後に当日の担当者に質問すること。							
担当教員(オムニバス科目等)		渡邊郁哉、バラネザハド・アリレザ、David Atwood (非常勤講師)、					
授業の概要及び位置づけ 本科目で学ぶのは、英語のリテラシーである。専門知識を学習するうえで不可欠な基礎的語学力を自己点検する。その上で、基本的な英語のリテラシーを学ぶ。							
授業到達目標 一般目標 GIO: 国際化に対応した歯科医師養成を目指す。 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 個別行動目標 SBOs: 基本的な英語の知識・技能を習得し、国際コミュニケーション 該当なし ョン英語能力を身に付ける							
対応するディプロマポリシー DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。							
授業方法(学習指導法) 3 年次に再受験が必須の TOEIC 試験について、試験内容の概要説明や試験対策(Listening and Reading)を行う。							
授業内容							
1 回目 TOEIC試験内容の概要 2 回目 TOEIC対策① 3 回目 TOEIC対策② 4 回目 TOEIC対策③ 5 回目 TOEIC対策④ 6 回目 TOEIC対策⑤ 7 回目 TOEIC対策⑥ 8 回目 TOEIC対策⑦ 9 回目 TOEIC対策⑧ 10 回目 TOEIC対策⑨ 11 回目 TOEIC対策⑩ 12 回目 TOEIC対策⑪ 13 回目 TOEIC対策⑫ 14 回目 TOEIC対策⑬ 15 回目 TOEIC対策⑭				16 回目 TOEIC対策⑮ 17 回目 TOEIC対策⑯ 18 回目 TOEIC対策⑰ 19 回目 TOEIC対策⑱ 20 回目 TOEIC対策⑲ 21 回目 TOEIC対策⑳ 22 回目 TOEIC対策㉑ 23 回目 TOEIC対策㉒ 24 回目 TOEIC対策㉓ 25 回目 TOEIC対策㉔ 26 回目 TOEIC対策㉕ 27 回目 TOEIC対策㉖ 28 回目 TOEIC対策㉗ 29 回目 TOEIC対策㉘ 30 回目 TOEIC対策㉙(アンケートなど)			
キーワード		実践英語					
教科書・教材・参考書		TOEIC 新公式問題集3, 4, 5, 6					
成績評価の方法・基準等		TOIEC本試験にて評価する。					
受講要件(履修条件)		2/3 以上の出席を受験資格とする。					
備考(学生へのメッセージ)		TOEIC 対策は Web Class と併用したハイブリッド型クラスとする。各自課題など期限までに On-line で提出を済ませること。					
実務経験のある教員による授業科目		該当しない。					

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室6B
2回	4	3	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室6B
3回	4	3	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室6B
4回	4	10	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
5回	4	10	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
6回	4	10	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
7回	4	17	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
8回	4	17	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
9回	4	17	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
10回	4	24	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
11回	4	24	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
12回	4	24	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
13回	5	1	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
14回	5	1	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
15回	5	1	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	8	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
17回	5	8	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
18回	5	8	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
19回	6	5	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
20回	6	5	木	7	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
21回	6	5	木	8	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
22回	6	12	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
23回	6	12	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
24回	6	12	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
25回	6	26	木	3	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
26回	6	26	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
27回	6	26	木	7	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
28回	7	10	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
29回	7	10	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
30回	7	10	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 火・1	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25064420		
科目ナンバリング・コード	DNGD11091098		
授業科目名/(英語名)	歯科医師のコンピテンシーⅢ/(Competence for Dentist Ⅲ)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘		
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる			
一般目標 GIO: 1 科学や社会の中で歯科医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合 整理し、表現する基本的能力(知識、技能、態度・習慣)・リベラルアーツを身に付ける。 2 患者および医療者にとって、良質で安全な医療を提供する事、とくに院内感染対策について理解する 個別行動目標 SBOs: 右記参照 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-2-2) 学修の在り方 1 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 2 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 3 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。 A-6-1) 安全性の確保 6 医療関連感染の原因と対策を概説できる 7 薬剤耐性に配慮した適切な抗菌薬使用ができる (ARM, AMS)。 8 歯科医療における事故の具体例を列举できる。 A-6-3) 医療従事者の健康と安全 1 医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる 2 標準予防策を説明できる。 3 感染経路別予防策を説明できる。 4 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。			
対応するディプロマポリシー DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。 DP9: 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。			
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, など			
1. 院内感染対策 1 医療関連感染とは 2. 院内感染対策 2 標準予防策, 問題となる微生物 3. 院内感染対策 3 耐性菌問題 (AMR) 4. 課題発表 5. まとめ			
キーワード	学術論文, EMB, 院内感染, スタンダードプレコーション, AMR		
教科書・教材・参考書	参考書：公衆衛生がみえる 2020-2021 (Medic Media, ISBN978-4-89632-687-1) 病院感染対策ガイドライン (じほう), 院内感染対策実践マニュアル (永末書店) WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&ua=1		

成績評価の方法・基準等	出席，プレゼンテーション等を中心に評価する。必要に応じて試験も行う
受講要件(履修条件)	自身の健康管理も歯科医師として必須事項である。したがって，学生健康診断未受験の学生には単位を与えない
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・山田 朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／臨床経験に基づいた院内感染対策/医療安全について教授する。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	2	火	1	イントロダクション, 課題提示	山田	講義室3A
2回	12	9	火	1	講義 院内感染対策、医療関連感染とは	山田	講義室3A
3回	12	16	火	1	グループワーク	山田	講義室3A
4回	12	23	火	1	グループワーク	山田	講義室3A
5回	1	6	火	1	プレゼンテーション	山田	講義室3A
6回	1	13	火	1	プレゼンテーション	山田	講義室3A
7回	1	27	火	1	なし	山田	講義室3A
8回	1	28	水	1	まとめ	山田	講義室3A

口腔生命科学総論（1 年次生、2 年次生、3 年次生）

（1）骨学及び同実習	（1 年）・・・・・・・・・・ 35
（2）解剖学及び同実習	（2 年）・・・・・・・・・・ 37
（3）発生学	（2 年）・・・・・・・・・・ 43
（4）組織学及び同実習	（2 年）・・・・・・・・・・ 46
（5）生理学	（2 年）・・・・・・・・・・ 49
（6）生理学実習	（2 年）・・・・・・・・・・ 52
（7）生化学	（2 年）・・・・・・・・・・ 55
（8）生化学実験	（2 年）・・・・・・・・・・ 57
（9）歯科理工学Ⅰ	（3 年）・・・・・・・・・・ 59
（10）歯科理工学Ⅱ	（3 年）・・・・・・・・・・ 61
（11）歯科理工学Ⅲ	（3 年）・・・・・・・・・・ 63
（12）病理学総論及び同実習	（3 年）・・・・・・・・・・ 65
（13）微生物学・口腔微生物学	（3 年）・・・・・・・・・・ 70
（14）薬理学及び同実習	（3 年）・・・・・・・・・・ 74
（15）歯科学のための物理科学	（1 年）・・・・・・・・・・ 78
（16）細胞生物学プラクシス	（1 年）・・・・・・・・・・ 81
（17）細胞生物学入門Ⅰ	（1 年）・・・・・・・・・・ 83
（18）細胞生物学入門Ⅱ	（1 年）・・・・・・・・・・ 85

年度 2025 学期 1・2Q		曜日・校時 水・1		必修選択 必修		単位数 1	
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)		25014108 DNGD22101985 歯科理工学Ⅰ / (Dental Materials Science and EngineeringⅠ)					
対象年次 3 年次		講義形態 講義形式		教室 講義室 3A			
対象学生(クラス等)			科目分類 口腔生命科学総論				
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00							
担当教員(オムニバス科目等)		渡邊郁哉、阿部薫明、バラネザハド有礼左					
授業の概要							
歯科材料の組成、構造、特性を通して材料選択の指針を理解させるとともに、歯科材料ならびに器械・器具類の適切な取り扱い方法に関する正しい知識を身につけさせる。これにより、臨床家としての材料選択や使用方法に関する価値判断ができるようになるものであり、患者ならびに医療スタッフへの説得力ある説明が可能になる。 様々な修復物の作製工程で必要になる各種の歯科材料、器械・器具類に関する基本的知識を習得する。							
授業到達目標							
一般目標 GIO: 歯科理工学という歯科医療における材料および器械・器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する							
個別行動目標 SBOs: ○ 歯科材料の基本的性質(物理的性質、機械的性質、化学的性質)を説明できる。 D-1 ○ 接着の機構、接着強さの測定法、接着部材の破壊様式を説明できる。 D-2 ○ 模型用材料、埋没材、歯科用陶材の組成、性質、成形技術を説明できる。 D-1、D-2 ○ 修復物の技工技術を使用機器と関連づけて説明できる。 D-1、D-2							
対応するディプロマポリシー							
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。							
授業方法(学習指導法)							
授業中に配付するプリントと教科書に基づいて講義する。課題を与えてレポートの提出を求めることがある。							
授業内容							
1 回目: 歯科材料の物理的性質について説明する。① 2 回目: 歯科材料の機械的性質について説明する。②(1) 3 回目: 歯科材料の機械的性質について説明する。③(2) 4 回目: 歯科材料の化学的性質について説明する。④ 5 回目: 歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。 6 回目: 接着の機構、接着強さの測定法、および接着部材の破壊様式を解説する。 7 回目: 模型用材料の種類、所要性質、硬化機構、性質を説明する。① 8 回目: 模型用材料の種類、所要性質、硬化機構、性質を説明する。② 9 回目: 歯科用埋没材の種類、所要性質、組成、硬化機構、取扱方法を説明する。① 10 回目: 歯科用埋没材の種類、所要性質、組成、硬化機構、取扱方法を説明する。② 11 回目: 歯科用埋没材の種類、所要性質、組成、硬化機構、取扱方法を説明する。③ 12 回目: 特殊な歯科用材料について解説する。 13 回目: 特殊な歯科用材料について解説する。 14 回目: 歯科用陶材の分類、組成、物性、成形技術を解説する。① 15 回目: 歯科用陶材の分類、組成、物性、成形技術を解説する。②							
キーワード		歯科材料、状態図、接着、模型用材料、埋没材、レジン、陶材					
教科書・教材・参考書		○スタンダード歯科理工学、学建書院 ○スキナー歯科材料学(上、中、下)、医歯薬出版 ○歯科材料学事典、山根正次監修、学建書院 ○コア歯科理工学、医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集、医歯薬出版					
成績評価の方法・基準等		筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。					
受講要件(履修条件)		2/3 以上の出席を受験資格とする。					
備考(学生へのメッセージ)		予習と復習を確実に実行すること。授業中に配付するプリントと教科書を中心に授業を進めるが、理解を深めるために各自で参考書等を準備すること。					
実務経験のある教員による授業科目		該当しない。					

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	水	1	歯科材料の一般的性質① 歯科材料の物理的性質について説明する。	阿部	講義室3A
2回	4	9	水	1	歯科材料の一般的性質② 歯科材料の機械的性質について説明する。(1)	阿部	講義室3A
3回	4	16	水	1	歯科材料の一般的性質③ 歯科材料の機械的性質について説明する。(2)	阿部	講義室3A
4回	4	23	水	1	歯科材料の一般的性質④ 歯科材料の化学的性質について説明する。	阿部	講義室3A
5回	4	30	水	1	合金の状態図 歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。	阿部	講義室3A
6回	5	7	水	1	材料の接着 接着の機構, 接着強さの測定法, および接着部材の破壊様式を解説する。	阿部	講義室3A
7回	5	14	水	1	模型用材料① 模型用材料の種類, 所要性質, 硬化機構, 性質を説明する。	阿部	講義室3A
8回	5	21	水	1	模型用材料② 模型用材料の種類, 所要性質, 硬化機構, 性質を説明する。	阿部	講義室3A
9回	5	28	水	1	埋没材① 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。	阿部	講義室3A
10回	6	4	水	1	埋没材② 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。	阿部	講義室3A
11回	6	11	水	1	埋没材③ 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。	阿部	講義室3A
12回	6	18	水	1	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	講義室3A
13回	6	25	水	1	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	講義室3A
14回	7	2	水	1	歯科用陶材① 歯科用陶材の分類, 組成, 物性, 成形技術を解説する。①	阿部	講義室3A
15回	7	9	水	1	歯科用陶材② 歯科用陶材の分類, 組成, 物性, 成形技術を解説する。②	阿部	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q		曜日・校時 水・2		必修選択 必修		単位数 1	
科目番号		25014109					
科目ナンバリング・コード		DNGD22091985					
授業科目名/(英語名)		歯科理工学Ⅱ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅱ)					
対象年次 3 年次			講義形態 講義形式		教室 講義室3A		
対象学生(クラス等)				科目分類		口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー							渡邊郁哉 /ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00
渡邊郁哉							
担当教員(オムニバ ス科目等)		渡邊郁哉、阿部薫明					
授業の概要							
種々の歯科材料の機械的、物理的、化学的性質を正しく理解するために必要な基礎的知識を身につける。また、歯科精密鑄造法と鑄造関連諸材料の特性を理解する。 口腔内や口腔外で使用される種々の歯科材料の性質を正しく理解し、優れた性質を引き出すために必要な基礎知識を習得する。／種々の歯科材料や生体材料の組成、構造、性質を説明できる。							
授業到達目標							
一般目標 GIO: 歯科理工学という歯科医療における材料および器械・器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する							
個別行動目標 SBOs: ○ 歯科材料と生体材料(金属材料, セラミック材料, 高分子材料, 複合材料)の構造と特徴を説明できる。 D-1, D-2 ○ 歯科精密鑄造法の原理と特徴, 鑄造欠陥の防止法を説明できる。 D-1, D-2 ○ 各種歯科材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明できる。 D-1, D-2							
対応するディプロマポリシー							
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。							
授業方法(学習指導法)							
授業中に配付するプリントに基づいて講義する。理解を深めるため、OHP や液晶プロジェクターなどを適宜利用する。授業中に質問したり、課題を与えてレポート提出を求める場合がある。							
授業内容							
1 回目: 歯科材料と生体材料について概説し、歯科材料の所要性質を解説する。 2 回目: 印象材の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。① 3 回目: 印象材の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。② 4 回目: 歯科用ワックスの種類, 所要性質, 取扱方法を説明する。 5 回目: 歯科精密鑄造の工程と種々の鑄造法について説明する。 6 回目: 合金の融解方法と鑄造収縮の要因を説明するとともに、鑄造収縮を補償するための具体的方法を解説する。 7 回目: 鑄造欠陥の種類, 成因, およびその防止策を解説する。 8 回目: 成形修復材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。① 9 回目: 成形修復材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。② 10 回目: 予防歯科材料と歯冠補綴用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱い方法を説明する。 11 回目: 人工歯根, 骨補填材料の種類と所要性質について説明する。 12 回目: 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途, 所要性質を説明する。① 13 回目: 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途, 所要性質を説明する。② 14 回目: 義歯用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱方法について解説する。① 15 回目: 義歯用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱方法について解説する。②							
キーワード		歯科材料, 生体材料, 接着, 陶材, 骨補填材料, 歯科精密鑄造					
教科書・教材・参考書		○スタンダード歯科理工学, 学建書院 ○スキナー歯科材料学(上, 中, 下), 医歯薬出版 ○歯科材料学事典, 山根正次監修, 学建書院 ○コア歯科理工学, 医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集, 医歯薬出版					
成績評価の方法・基準等		筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。					
受講要件(履修条件)		2/3 以上の出席を受験資格とする。					
備考(学生へのメッセージ)		予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが、理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。					
実務経験のある教員による授業科目		該当しない。					

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	水	2	歯科材料概論 歯科材料と生体材料について概説し、歯科材料の所要性質を解説する。	渡邊	講義室3A
2回	4	9	水	2	印象材① 印象材の種類、組成、硬化機構、性質、取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
3回	4	16	水	2	印象材② 印象材の種類、組成、硬化機構、性質、取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
4回	4	23	水	2	歯科用ワックス 歯科用ワックスの種類、所要性質、取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
5回	4	30	水	2	歯科精密鑄造法 歯科精密鑄造の工程と種々の鑄造法について説明する。	渡邊	講義室3A
6回	5	7	水	2	合金の融解・鑄造収縮 合金の融解方法と鑄造法について説明する。鑄造収縮の要因を説明するとともに、鑄造収縮を補償するための具体的方法を解説する。	渡邊	講義室3A
7回	5	14	水	2	鑄造欠陥 鑄造欠陥の種類、成因、およびその防止策を解説する。	渡邊	講義室3A
8回	5	21	水	2	成形修復材料① 成形修復材料の種類、組成、硬化機構、性質、取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
9回	5	28	水	2	成形修復材料② 成形修復材料の種類、組成、硬化機構、性質、取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
10回	6	4	水	2	予防歯科材料と歯冠補綴用レジン材料 予防歯科材料の概要、種類、所要性質について説明する。 歯科用レジン材料の種類、所要性質、硬化機構、取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
11回	6	11	水	2	人工歯根と骨補填材料 人工歯根、骨補填材料の種類と所要性質について説明する。	渡邊	講義室3A
12回	6	18	水	2	合着・接着用材料・歯科用セメント① 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途、所要性質を説明する。	渡邊	講義室3A
13回	6	25	水	2	合着・接着用材料・歯科用セメント② 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途、所要性質を説明する。	渡邊	講義室3A
14回	7	2	水	2	義歯用材料① 義歯用材料の概要、種類、所要性質、取扱方法について解説する。	渡邊	講義室3A
15回	7	9	水	2	義歯用材料② 義歯用材料の概要、種類、所要性質、取扱方法について解説する。	渡邊	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q		曜日・校時 水・3		必修選択 必修		単位数 1	
科目番号		25014110					
科目ナンバリング・コード		DNGD22111985					
授業科目名/(英語名)		歯科理工学Ⅲ/（Dental Materials Science and Engineering Ⅲ）					
対象年次 3 年次			講義形態 講義形式		教室 講義室3A		
対象学生(クラス等)				科目分類 口腔生命科学総論			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー							渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料科学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00
担当教員(オムニバス科目等)		渡邊郁哉、阿部薫明					
授業の概要							
日進月歩する歯科材料，機械・器具ならびに技工技術について，科学的な判断力と応用能力を高めることを目標とする。金合金，金銀パラジウム合金，チタンなどの各種修復用合金の諸性質と，優れた性能を引き出すための正しい取り扱い方について学ぶ。さらに，技工技術の点で重要なろう付けや研磨方法を理解するための基礎知識を身につける。／各種歯科用合金の組成，性質，用途，利点・欠点，熱処理法等が説明できる。ろう付けや研磨作業を行う上で注意すべき点を説明できる。							
授業到達目標							
一般目標 GIO:							
歯科理工学という歯科医療における材料および器機・器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する							
個別行動目標 SBOs:							
○歯科用金属材料の種類と性質，ならびに適切な取り扱い方を説明できる。						D-1, D-2	
○切削，研磨，摩耗の理論を説明できる。						D-1, D-2	
○歯科用金属材料の接合方法を説明できる。						D-1, D-2	
対応するディプロマポリシー							
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。							
DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。							
授業方法(学習指導法)							
授業中に配布するプリントと教科書を中心に講義を進める。課題を与えてレポートを提出させることがある。							
授業内容							
1 回目: 金属の接合方法の種類とそれぞれの原理，特徴を説明する。①							
2 回目: 金属の接合方法の種類とそれぞれの原理，特徴を説明する。②							
3 回目: 切削と研磨の理論を説明し，研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。							
4 回目: 歯科用純チタンとチタン合金の用途，特徴，性質を説明する。							
5 回目: 鑄造用金合金の分類，性質，用途を説明するとともに，各種添加元素の効果を説明する。							
6 回目: 鑄造用金合金の熱処理法と，熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。							
7 回目: 歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに，耐硫化性の改善法を説明する。							
8 回目: 金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質，取り扱い上の注意点を説明する。							
9 回目: 陶材焼付合金の分類，所要性質，陶材／合金間の接合機構を説明する。							
10 回目: 歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。①							
11 回目: 歯科用磁性材料の分類，用途，特徴，性質を説明する。							
12 回目: 歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。②							
13 回目: 歯内療法関連材料の種類，所要性質，取り扱い方法を説明する。							
14 回目: 歯科矯正用材料の種類，所要性質，取り扱い方法を説明する。							
15 回目: 歯科用器械の種類，所要性質，取り扱い方法を説明する。							
キーワード		金属材料，ろう付け，研磨，摩耗					
教科書・教材・参考書		○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○R.W. Phillips, Skinner’s Science of Dental Materials, W.B. Saunders Company ○Craig’s Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典，学建書院 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版					
成績評価の方法・基準等		筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。					
受講要件(履修条件)		2/3 以上の出席を受験資格とする。					
備考(学生へのメッセージ)		予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。					
実務経験のある教員による授業科目		該当しない。					

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	水	3	金属の接合① 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室3A
2回	4	9	水	3	金属の接合② 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室3A
3回	4	16	水	3	切削と研磨 切削と研磨の理論を説明し、研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。	渡邊	講義室3A
4回	4	23	水	3	チタンとチタン合金 歯科用純チタンとチタン合金の用途、特徴、性質を説明する。	渡邊	講義室3A
5回	4	30	水	3	金合金① 鋳造用金合金の分類、性質、用途を説明するとともに、各種添加元素の効果を説明する。	阿部	講義室3A
6回	5	7	水	3	金合金② 鋳造用金合金の熱処理法と、熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。	阿部	講義室3A
7回	5	14	水	3	銀合金 歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに、耐硫化性の改善法を説明する。	阿部	講義室3A
8回	5	21	水	3	金銀パラジウム合金と低融銀合金 金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質、取り扱い上の注意点を説明する。	阿部	講義室3A
9回	5	28	水	3	陶材焼付用合金 陶材焼付用合金の分類、所要性質、陶材／合金間の接合機構を説明する。	阿部	講義室3A
10回	6	4	水	3	非貴金属合金① 歯科用非貴金属合金の分類、用途、組成、性質などを説明する。	阿部	講義室3A
11回	6	11	水	3	歯科用磁性材料 歯科用磁性材料の分類、用途、特徴、性質を説明する。	渡邊	講義室3A
12回	6	18	水	3	非貴金属合金② 歯科用非貴金属合金の分類、用途、組成、性質などを説明する。	阿部	講義室3A
13回	6	25	水	3	歯内療法関連材料 歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A
14回	7	2	水	3	歯科矯正用材料 歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A
15回	7	9	水	3	歯科用器械 歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 火・1Q: 4～6, 2Q: 2～6	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014117 DNGD22121909 病理学総論及び同実習/(General Pathology Lecture and Practice)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 片瀬 直樹/katase@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野准教授室/095-819-7645(内 7645)/17:00～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	片瀬直樹、永野健一、藤田修一		
授業の概要及び位置づけ			
歯科を含めた医療の従事者または研究者になるためには、「病気」を十分に理解することが必要である。病理学は病気の原因、異常が生じる機構、機能・構造上の変化、病気の経過を解明する学問である。病理学総論の講義では、顎口腔領域に限定せず、代表的な全身での疾患を取り上げながら、基本的な病理変化を解説する。実習では講義した種々の疾患の病理組織標本の顕微鏡像の観察を通して、組織・細胞レベルでその成り立ちを理解する。講義と実習は互いにリンクしており、講義内容を実習の組織標本で確かめ、理解を深める。この授業で示す全身でみられる疾患の基本的病理変化は、口腔領域での疾患でも起こっている。従って本授業は後期で学ぶ「口腔病理学及び同実習」で学習する疾患の理解にも必要である。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 病理学総論の講義では、疾病の原因・発生機構・病態・予後を理解する。実習では各種疾病の組織学的変化を病理学的に解釈する。			
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
C-5-1)-②			
C-5-1)-①			
C-5-1)-①			
C-5-2)-①～④, C-2-3)-④			
C-5-2)-②, E-6			
C-5-3)-①～⑤			
C-5-4)-①～⑥, E-6-①			
C-5-5)-①～④, E-2-4)-(3)-②			
C-4-2)-③, C-4-2)-⑤・⑥, E-6			
C-5-6)-①・②・④・⑥			
C-5-6)-⑤			
C-5-7)-①			
個別行動目標 SBOs: 1. 病因を分類し、それによる疾患を列举できる。 2. 遺伝性疾患について説明できる。 3. 奇形を分類し、疾患例を列举できる。 4. 萎縮・変性・壊死・アポトーシスを理解し、疾患との関係を説明できる。 5. 物質代謝異常と代表的疾患を説明できる。 6. 肥大・過形成・化生・再生・肉芽組織・創傷治癒・異物の処理(器質化を含む)を説明できる。 7. 充血・うっ血・虚血・出血・血栓症・塞栓症・梗塞・高血圧・ショック・傍側循環・浮腫を説明できる。 8. 炎症の定義を理解し、炎症の変遷、諸型の臨床的・組織学的特徴を説明できる。 9. アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全症・移植と拒絶反応を説明できる。 10. 腫瘍の定義を理解し、腫瘍の形態・動態、発生を説明できる。 11. 腫瘍を分類し、組織型を列举できる。 12. 老化と個体死を説明できる。			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
病理学総論として、基本的病態の概念を講義し、各種疾患の原因・成り立ち・病態を解説する。実習標本の観察を通して疾患の成り立ちや臨床病態などについて総合的に考えさせる。講義、実習によって学生が授業で得た知識を深め、将来の臨床医学で役立てることができるように指導する。講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは授業前に LACS に提示するので各自、印刷して授業に持参すること。実習はバーチャルスライドの学生間に差異のない画像によって行う。バーチャルスライドが使用不可の場合は、配布された標本の顕微鏡観察を行う。いずれもスケッチをとり、その所見を記載する。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本を解説する。学生は資料を LACS から印刷して持参し、不明な点は随時教員に質問すること。実習中にそれまでに終了した講義分の小テストを行うことがある。			

授業内容 講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照 L (Lecture): 講義(講義室 3A 及び 3B)、P (Practice): 実習(実習室5B) <table> <tr> <td>1 週</td><td>L1,2 病理学序論</td><td>L3 病因論</td><td></td></tr> <tr> <td>2 週</td><td>L4 病因論</td><td>L5,6 染色体・遺伝子及び発生の異常</td><td></td></tr> <tr> <td>3 週</td><td>L7 染色体・遺伝子及び発生の異常</td><td>L8,9 細胞・組織傷害</td><td></td></tr> <tr> <td>4 週</td><td>L10, 11 修復と再生</td><td>L12 代謝異常</td><td></td></tr> <tr> <td>5 週</td><td></td><td></td><td>P1～3 実習方法説明、細胞・組織傷害</td></tr> <tr> <td>6 週</td><td>L13 代謝異常</td><td>L14,15 循環障害</td><td></td></tr> <tr> <td>7 週</td><td></td><td></td><td>P4～6 細胞・組織障害、修復と再生</td></tr> <tr> <td>8 週</td><td>L16 循環障害</td><td></td><td>P7～9 循環障害</td></tr> <tr> <td>9 週</td><td>L17, 18 炎症</td><td></td><td>P10～12 循環障害</td></tr> <tr> <td>10 週</td><td>L19 炎症</td><td>L20 感染症</td><td>P13～15 炎症</td></tr> <tr> <td>11 週</td><td>L21 感染症</td><td>L22 免疫異常</td><td>P16～18 炎症</td></tr> <tr> <td>12 週</td><td>L23 免疫異常</td><td>L24 免疫異常</td><td>P19～21 炎症、感染症、免疫異常</td></tr> <tr> <td>13 週</td><td>L25, 26 腫瘍</td><td></td><td>P22～24 腫瘍</td></tr> <tr> <td>14 週</td><td>L27,28 腫瘍</td><td></td><td>P25～27 腫瘍</td></tr> <tr> <td>15 週</td><td>L29 病理組織検査の実際</td><td>L30 老化と個体死</td><td>P28～30 腫瘍</td></tr> </table>				1 週	L1,2 病理学序論	L3 病因論		2 週	L4 病因論	L5,6 染色体・遺伝子及び発生の異常		3 週	L7 染色体・遺伝子及び発生の異常	L8,9 細胞・組織傷害		4 週	L10, 11 修復と再生	L12 代謝異常		5 週			P1～3 実習方法説明、細胞・組織傷害	6 週	L13 代謝異常	L14,15 循環障害		7 週			P4～6 細胞・組織障害、修復と再生	8 週	L16 循環障害		P7～9 循環障害	9 週	L17, 18 炎症		P10～12 循環障害	10 週	L19 炎症	L20 感染症	P13～15 炎症	11 週	L21 感染症	L22 免疫異常	P16～18 炎症	12 週	L23 免疫異常	L24 免疫異常	P19～21 炎症、感染症、免疫異常	13 週	L25, 26 腫瘍		P22～24 腫瘍	14 週	L27,28 腫瘍		P25～27 腫瘍	15 週	L29 病理組織検査の実際	L30 老化と個体死	P28～30 腫瘍
1 週	L1,2 病理学序論	L3 病因論																																																													
2 週	L4 病因論	L5,6 染色体・遺伝子及び発生の異常																																																													
3 週	L7 染色体・遺伝子及び発生の異常	L8,9 細胞・組織傷害																																																													
4 週	L10, 11 修復と再生	L12 代謝異常																																																													
5 週			P1～3 実習方法説明、細胞・組織傷害																																																												
6 週	L13 代謝異常	L14,15 循環障害																																																													
7 週			P4～6 細胞・組織障害、修復と再生																																																												
8 週	L16 循環障害		P7～9 循環障害																																																												
9 週	L17, 18 炎症		P10～12 循環障害																																																												
10 週	L19 炎症	L20 感染症	P13～15 炎症																																																												
11 週	L21 感染症	L22 免疫異常	P16～18 炎症																																																												
12 週	L23 免疫異常	L24 免疫異常	P19～21 炎症、感染症、免疫異常																																																												
13 週	L25, 26 腫瘍		P22～24 腫瘍																																																												
14 週	L27,28 腫瘍		P25～27 腫瘍																																																												
15 週	L29 病理組織検査の実際	L30 老化と個体死	P28～30 腫瘍																																																												
キーワード	病因、染色体・遺伝子異常、発生異常、細胞・組織傷害、代謝障害、修復と再生、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍、老化と個体死、病理検査、病理組織標本作製法																																																														
教科書・教材・参考書	1. 標準病理学 第7版 (医学書院) 2. ロビンス基礎病理学 原著 10 版 (エルセビア・ジャパン) 3. カラー ルービン病理学 (西村書店) 4. 組織病理アトラス(文光堂) など一般的な病理組織学アトラス 授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能																																																														
成績評価の方法・基準等	主に定期試験(筆記試験)の得点で評価する。必要に応じて小テストを実施し、その成績も考慮する。																																																														
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の 3/4 以上の出席																																																														
備考(学生へのメッセージ)	病理学を理解する上で、「正常」を対象とする解剖学、組織学などの基礎知識が必要となります。																																																														
実務経験のある教員による授業科目	・片瀬 直樹/長崎大学病院での病理診断実務経験/長崎大学病院での病理診断業務の勤務経験をもとに、臨床病理診断学上重要なポイントを踏まえて病理学の解説を行うとともに、医療人としてふさわしい態度を習得させる。 ・永野健一/長崎大学病院での病理診断実務経験/長崎大学病院での病理診断業務経験を元に、疾患による組織学的変化の解説を行い、医療者として必要な知識、学習態度を習得させる。 ・藤田 修一/長崎大学熱帯医学研究所での病理解剖業務と長崎大学病院での病理業務(組織診断・細胞診)/病理解剖並びに病理診断科・病理部での組織診断・細胞診の実務経験をもとに、疾患の基本的病理変化を解説する。																																																														

日程表 講義

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	火	4	病理学序論 ・ 病理学とは ・ 人体病理学と実験病理学	片瀬	講義室3A
2回	4	1	火	5	臨床医学としての病理診断学 ・ 生検、術中迅速診断、病理解剖 ・ コンパニオン診断、ゲノム医療	片瀬	講義室3A
3回	4	1	火	6	病因論 ・ 病気の原因	片瀬	講義室3A
4回	4	8	火	4	病因論 ・ 内因 ・ 外因	片瀬	講義室3A
5回	4	8	火	5	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 遺伝子、染色体の基礎	片瀬	講義室3A
6回	4	8	火	6	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 染色体異常とその関連疾患 ・ 常染色体の異常、性染色体の異常	片瀬	講義室3A
7回	4	15	火	4	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 遺伝子異常とその関連疾患 ・ 常染色体顕性遺伝病、常染色体潜性遺伝病	片瀬	講義室3A
8回	4	15	火	5	細胞・組織障害 ・ 細胞・組織障害の概念 ・ 退行性病変	片瀬	講義室3A
9回	4	15	火	6	細胞・組織障害 ・ 萎縮、変性 ・ 細胞死(壊死とアポトーシス)	片瀬	講義室3A
10回	4	22	火	4	修復と再生 ・ 修復と再生の概念、肥大と過形成 ・ 進行性病変	片瀬	講義室3A
11回	4	22	火	5	修復と再生 ・ 化生、再生 ・ 肉芽組織、創傷治癒、異物の処理	片瀬	講義室3A
12回	4	22	火	6	代謝異常 ・ 糖質代謝障害、蛋白質代謝障害、核酸代謝障害、脂質代謝障害	片瀬	講義室3A
13回	5	20	火	4	代謝異常 ・ 無機質代謝障害、生体内色素代謝障害	片瀬	講義室3A
14回	5	20	火	5	循環障害 ・ 正常循環の概要 ・ 充血、うつ血、虚血	片瀬	講義室3A
15回	5	20	火	6	循環障害 ・ 出血、血栓症、塞栓症、梗塞 ・ 水腫(浮腫)、傍側循環(側副循環)	片瀬	講義室3A
16回	6	3	火	3	循環障害 ・ ショック、播種性血管内凝固症候群、高血圧症	片瀬	講義室3A
17回	6	10	火	2	炎症 ・ 定義と5大徴候 ・ 炎症性滲出とケミカルメディエータ	片瀬	講義室3A
18回	6	10	火	3	炎症 ・ 炎症での組織学的変化 ・ 急性炎と慢性炎	片瀬	講義室3A
19回	6	17	火	2	炎症 ・ 炎症の分類と諸型	片瀬	講義室3A

20回	6	17	火	3	感染症 ・ 感染症とは ・ 感染防御機構	片瀬	講義室3A
21回	6	24	火	2	感染症 ・ 感染症各論	片瀬	講義室3A
22回	6	24	火	3	免疫異常 ・ 免疫の概要 ・ アレルギー	片瀬	講義室3A
23回	7	1	火	2	免疫異常 ・ 自己免疫疾患 ・ 後天性免疫不全症候群	片瀬	講義室3A
24回	7	1	火	3	免疫異常 ・ 移植 ・ 拒絶反応と移植片対宿主病	片瀬	講義室3A
25回	7	8	火	2	腫瘍 ・ 腫瘍の定義 ・ 腫瘍の形態と動態	片瀬	講義室3A
26回	7	8	火	3	腫瘍 ・ 良性腫瘍と悪性腫瘍 ・ 腫瘍の原因と発生	片瀬	講義室3A
27回	7	15	火	2	腫瘍 ・ がん遺伝子とがん抑制遺伝子 ・ 悪性腫瘍の進行度分類	片瀬	講義室3A
28回	7	15	火	3	腫瘍 ・ 腫瘍の組織学的分類 ・ 腫瘍の各組織型	片瀬	講義室3A
29回	7	22	火	2	病理組織検査の実際 ・ 病理組織標本作製法	藤田	講義室3A
30回	7	22	火	3	老化と個体死 ・ フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア ・ 心臓死、脳死、死後変化	片瀬	講義室3A

日程表 実習

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	5	13	火	4～6	病理学実習説明、細胞・組織傷害 ・ 黄疸、アミロイドーシス、異所性石灰化、過角化症	片瀬 永野	実習室5B
4～6回	5	27	火	4～6	細胞・組織障害、修復と再生 ・ 褐色萎縮 ・ 前立腺肥大、扁平上皮化生、異物性肉芽腫、石綿症	片瀬 永野	実習室5B
7～9回	6	3	火	4～6	循環障害 ・ 肝うつ血、肺うつ血・水腫・出血、食道静脈瘤、大動脈粥状硬化症	片瀬 永野	実習室5B
10～12回	6	10	火	4～6	循環障害 ・ 血栓症、新鮮心筋梗塞、陳旧性心筋梗塞、腎梗塞、肺出血性梗塞	片瀬 永野	実習室5B
13～15回	6	17	火	4～6	炎症 ・ 慢性活動性肝炎、線維索性心外膜炎、皮膚膿瘍、虫垂炎、肝硬変	片瀬 永野	実習室5B
16～18回	6	24	火	4～6	炎症 ・ 気管支肺炎、間質性肺炎、胃消化性潰瘍、扁桃炎、肺結核	片瀬 永野	実習室5B
19～21回	7	1	火	4～6	炎症、感染症、免疫異常 ・ サルコイドーシス、腎カンジダ症、肺巨細胞性封入体症 ・ 橋本病、リウマチ性心筋炎	片瀬 永野	実習室5B
22～24回	7	8	火	4～6	腫瘍 ・ 大腸腺腫症、大腸腺癌、皮膚基底細胞癌、食道扁平上皮癌、 肺乳頭腺癌、胃低分化腺癌	片瀬 永野	実習室5B
25～27回	7	15	火	4～6	腫瘍 ・ 胃印環細胞癌、肝細胞癌、腺癌肝転移、甲状腺乳頭癌リンパ節転移、 神経鞘腫、乳腺線維腺腫	片瀬 永野	実習室5B
28～30回	7	22	火	4～6	腫瘍 ・ 骨肉腫、平滑筋腫、平滑筋肉腫、悪性黒色腫、多発性骨髄腫、 悪性リンパ腫	片瀬 永野	実習室5B

年度 2025 学期 通年(1・2Q)	曜日・校時 1Q 月・火・2～3, 2Q 月・2～3	必修選択 必修	単位数 4(通年)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014116 DNGD22131981 微生物学・口腔微生物学/ (Microbiology・Oral Microbiology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子, 哲翁ふみ,		
授業の概要 1) 微生物の種類と特性を理解する。2) 寄生・感染と生体の防御機構を理解する。3) 防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 病原微生物の特徴と宿主の防御反応を理解する。また感染症対策の手技と抗生物質を含む化学療法薬の作用機序を理解する。			
個別行動目標 SBOs: (感染) 1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状、さらにヒトに対する感染機構と病原性を説明する。			
2. 感染症の種類、予防、診断及び治療を説明する。			
3. 滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。			
4. 化学療法の原理、化学療法薬の作用機序、薬剤耐性機序を説明する。			
(免疫) 1. 自然免疫と獲得免疫の機構とその異同、さらに粘膜免疫を説明する。			
2. 免疫担当細胞の種類と働き、抗原提示機能と免疫寛容を説明する。			
3. アレルギー疾患の種類、発症機序及び病態を説明する。			
4. 免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明する。			
5. ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明する。			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクター及び板書を中心とした講義を行う。毎回、重要語句を空欄にしたプリントを配布、講義内容を書き込んでいくことで各々が要点整理を行う。また、各自の理解度の確認を兼ねた LACS テストと学生による発表会を行う。			
授業内容 1- 4 回目 生物の歴史と発展、微生物の基礎、微生物の分類と性状(基本構造)について説明する。 5- 8 回目 微生物の遺伝学: 微生物遺伝子の進化と変化、微生物遺伝子の応用について説明する。 感染制御: 感染症の検出と診断、感染と発病のメカニズム、感染の免疫について説明する。 9-10 回目 発表会 1: 歴史的に重要な感染症について発表、説明する。 11-14 回目 滅菌と消毒: 物理的方法、科学的方法、薬剤による消毒について説明する。 15-18 回目 感染症の治療: 化学療法と化学療法薬 化学療法薬の作用機序について説明する。 薬剤耐性: 薬剤耐性化の仕組みと化学療法薬の臨床的使用について説明する。 19-20 回目 発表会 2: 免疫の種類と免疫関連疾患について発表、説明する。 21-24 回目 免疫の基礎: 自然免疫、微生物の認識と排除機構について補体系を含めて説明する。 25-28 回目 体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫、過敏症(アレルギー)、について説明する。 29-30 回目 発表会 3: 主要な感染症について(細菌性疾患)について発表、説明する。 31-33 回目 免疫不全、自己免疫疾患、ワクチンによる感染予防について説明する。 34-37 回目 各論: グラム陽性球菌: レンサ球菌属、ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。 38-39 回目 各論: グラム陽性桿菌とグラム陰性球菌、グラム陰性桿菌に含まれる病原細菌について説明する。 特に非芽胞形成性の病原菌について説明する。 40-41 回目 発表会 4: 主要な感染症について(ウイルス性疾患)について発表、説明する。 42-45 回目 各論: グラム陰性桿菌、らせん菌に属する病原菌とその感染症について説明する。			
キーワード	感染・微生物・免疫		
教科書・教材・参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学・免疫学		
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題発表等の評価を総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	前期での講義への出席が 2/3 以上		
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に教科書を用いて予習をすること。また知識の定着の為に受講時に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。		
実務経験のある教員による授業科目			

年度 2025 学期 通年(3・4Q)	曜日・校時 月・3	必修選択 必修	単位数 4(通年)
科目番号	25014116		
科目ナンバリング・コード	DNGD22131981		
授業科目名/(英語名)	微生物学・口腔微生物学/ (Microbiology・Oral Microbiology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、哲翁ふみ、小松澤均(非常勤講師) 、大原直也(非常勤講師)		
授業の概要 1)微生物の種類と特性を理解する。2) 寄生・感染と生体の防御機構を理解する。3) 防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 病原微生物の特徴と宿主の防御反応を理解する。またワクチンを含めた感染症対策の手技と抗生物質を含む化学療法薬の作用機序を理解する。 【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
個別行動目標 SBOs: (感染)1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状、さらにヒトに対する感染機構と病原性を説明する。 2. 感染症の種類、予防、診断及び治療を説明する。 3. 滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。 4. 化学療法の原理、化学療法薬の作用機序、薬剤耐性機序を説明する。 5. 歯周病、う蝕の発症機序を説明する。 (免疫)1. ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明する。 C-4-1) C-4-1) C-4-1) C-4-1) C-4-2)			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクター及び板書を中心とした講義を行う。毎回、重要語句を空欄にしたプリントを配布、講義内容を書き込んでいくことで各々が要点整理を行う。また、出席と各自の理解度の確認を兼ねた LACS テストも行う。			
授業内容 46 回目 有芽胞細菌とその感染症について説明する。特産する毒素の作用機序について説明する・ 47 回目 各論: 主要な抗酸菌感染症について、説明する。また免疫反応についての総括を行う。 48 回目 う蝕における微生物の役割について説明する。とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。 49 回目 性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。 50 回目 口腔の常在微生物叢; 人体の正常フローラ、特に口腔内微生物、口腔免疫について説明する。 51 回目 デンタルプラーク: 形成と機能、特徴について説明する。 52 回目 歯周病における微生物の役割について説明する。特に red complex について説明する。 53 回目 う蝕、歯周病の免疫学、病因論に基づいた予防と治療について説明する。 54 回目 マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、による感染症と病原真菌、原虫について説明する。 55 回目 ウイルスの特性、構造、分類について説明する。 56 回目 ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。 57 回目 ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。 58 回目 カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。 59 回目 がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。 60 回目 口腔関連感染症、口腔微生物と全身疾患について説明する。			
キーワード	感染・微生物・免疫		
教科書・教材・参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学・免疫学		
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題発表等の評価を総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	後期での講義への出席が 2/3 以上		
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に教科書を用いて予習をすること。また知識の定着の為に受講時に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。		
実務経験のある教員による授業科目	大原 直也/国立感染症研究所にて結核対策および研究に従事した経験あり/日本の結核の対策および研究に携わった経験をもとに、微生物学の各論として結核についての解説を行う		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1,2回	4	1	火	2、3	微生物の歴史と発展、微生物の基礎について説明する。 微生物の分類と性状： 細菌の基本構造、物質代謝について説明する。	内藤	講義室3A
3,4回	4	7	月	2、3	微生物の分類と性状： ウイルス、真菌、原虫について説明する。	内藤	講義室3A
5,6回	4	8	火	2、3	微生物の遺伝学： 微生物遺伝子の進化と変化、微生物遺伝子の応用について説明する。	内藤	講義室3A
7,8回	4	14	月	2、3	感染制御： 感染と発病のメカニズム、感染の免疫について説明する。	内藤	講義室3A
9,10回	4	15	火	2、3	発表会1:歴史的に重要な感染症	哲翁	講義室3A
11,12回	4	21	月	2、3	滅菌と消毒： 物理的方法、科学的方法、薬剤による消毒について説明する。	哲翁	講義室3A
13,14回	4	22	火	2、3	感染症の検出と診断、感染における病原因子について説明する。	内藤	講義室3A
15,16回	4	28	月	2、3	感染症の治療： 化学療法と化学療法薬 化学療法薬の作用機序について説明する。	内藤	講義室3A
17,18回	5	12	月	2、3	薬剤耐性： 薬剤耐性化の仕組みと化学療法薬の臨床的使用について説明する。	内藤	講義室3A
19,20回	5	13	火	2、3	発表会2:免疫の種類と免疫関連疾患	内藤	講義室3A
21,22回	5	19	月	2、3	免疫の基礎： 自然免疫、微生物の認識と排除機構について補体系を含めて説明する。	内藤	講義室3A
23,24回	5	20	火	2、3	自然免疫から獲得免疫： 抗原処理と提示、免疫担当細胞について説明する。	内藤	講義室3A
25,26回	5	26	月	2、3	体液性免疫について説明する。 細胞性免疫、粘膜免疫について説明する。	内藤	講義室3A
27,28回	5	27	火	2、3	過敏症(アレルギー)について説明する。	内藤	講義室3A
29,30回	6	2	月	2、3	発表会3:主要な感染症について(細菌性疾患1)	内藤	講義室3A
31回	6	3	火	2	免疫不全、自己免疫疾患について説明する。	内藤	講義室3A
32,33回	6	9	月	2、3	ワクチンによる感染予防について説明する。 ワクチンの問題点と副反応、抗原非特異的免疫療法について説明する。	内藤	講義室3A
34,35回	6	16	月	2、3	各論:グラム陽性球菌： レンサ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	内藤	講義室3A
36,37回	6	23	月	2、3	各論:グラム陽性球菌： ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	内藤	講義室3A
38,39回	6	30	月	2、3	発表会4:主要な感染症について(ウイルス性疾患)	内藤	講義室3A
40,41回	7	7	月	2、3	各論:グラム陽性桿菌とグラム陰性球菌： 非芽胞形成性グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌に含まれる病原細菌について説明する。	内藤	講義室3A
42,43回	7	14	月	2、3	各論:グラム陰性桿菌： 腸内細菌科に含まれる菌について説明する。また含まれる病原微生物(大腸菌、コレラ菌等)について説明する。	内藤	講義室3A
44,45回	7	28	月	4、5	各論:グラム陰性桿菌、らせん菌 らせん菌、緑膿菌、百日咳菌、レジオネラ等の病原菌について説明する。	内藤	講義室3A

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
46回	9	29	月	3	有芽胞細菌とその感染症について説明する。とくに破傷風菌とボツリヌス菌についてはその産生毒素の作用機構について説明する。	内藤	講義室3A
47回	10	6	月	3	抗酸菌の特徴とその感染症：結核菌とらい菌について説明する。	大原	講義室1D
48回	10	20	月	3	う蝕における微生物の役割について説明する。 とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。	小松澤	講義室3A
49回	10	27	月	3	性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。	内藤	講義室3A
50回	11	4	火	3	口腔の常在微生物叢 人体の正常フローラ、特に口腔内微生物について説明する。 また口腔における免疫についても説明する。	内藤	講義室3A
51回	11	10	月	3	デンタルプラーク：形成と機能、特徴について説明する。	内藤	講義室3A
52回	11	17	月	3	歯周病における微生物の役割について説明する。 歯周病関連細菌について、とくに <i>P. gingivalis</i> , <i>A. actinomycetemcomitans</i> , <i>T. forsythia</i> について説明する。	内藤	講義室3A
53回	12	1	月	3	う蝕、歯周病の免疫学、病因論に基づいた予防と治療について説明する。	内藤	実習室5A
54回	12	8	月	3	マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、による感染症と病原真菌、原虫について説明する。	内藤	薬学部 講義室1B
55回	12	15	月	3	ウイルスの特性、構造、分類について説明する。	内藤	講義室3A
56回	12	22	月	3	ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。	内藤	講義室3A
57回	1	5	月	3	ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	内藤	講義室3A
58回	1	19	月	3	カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。	哲翁	講義室3A
59回	1	26	月	3	がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	哲翁	講義室3A
60回	2	2	月	3	口腔関連感染症、口腔微生物と全身疾患について説明する。	内藤	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 月・4～6 火・1	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25014118		
科目ナンバリング・コード	DNGD22141904		
授業科目名/(英語名)	薬理学及び同実習/ (Pharmacology and it's experiments)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室	講義室 3A、実習室 5C
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 A 棟 5 階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	筑波隆幸、坂井詠子、佐藤友昭 (鹿児島大学教授)		
授業の概要 薬物を生体に投与した時の生体の反応、すなわち薬理作用を学び、その作用の発現や機序を論理的に理解することを目標にする。これらの知識は将来、医療における薬物治療の基盤となる。			
授業到達目標: 一般目標 GIO: 薬物の生体に対する作用(薬力学)と薬物を分解、排泄する現象(薬物動態学)を理解し、病気の治療に役立てる知識を得ることを目標とする 個別行動目標 SBOs: 1.医薬品の分類ならびに薬物と医薬品との関係を理解し説明できる。 2.薬物の作用に関する基本的事項を理解し説明できる。 3.種々の方法で適用された薬物の生体内運命を理解し説明できる。 4.薬物の副作用・有害作用の種類とその予防対策を理解し説明できる。 5.小児、妊婦、高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。			
		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 C-6-1)-①～③, C-6-2)-①～⑤ C-6-3)-①～②, C-6-4)-①～② C-6-3)-②, E-1-4)-(1)-⑤,⑥	
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行なう。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてもらいたい。			
授業内容 (講義) 1 回目 【総論】薬理学序論 2 回目 薬理作用の機序 3 回目 用量と薬理作用 4 回目 生理活性物質 5 回目 細胞内情報伝達(1) 6 回目 細胞内情報伝達(2) 7 回目 受容体と薬物(1) 8 回目 受容体と薬物(2) 9 回目 イオンチャネルと薬物 10 回目 酵素と薬物 11 回目 トランスポーターと薬物 12 回目 薬物動態(1) 13 回目 薬物動態(2) 14 回目 薬物動態(3) 15 回目 薬物の作用因子 16 回目 薬物の連用と併用、相互作用 17 回目 副作用と有害作用 18 回目 薬物と医薬品(1) 19 回目 薬物と医薬品(2) 20 回目 【各論】末梢神経薬理(1) 21 回目 末梢神経薬理(2) 22 回目 末梢神経薬理(3) 23 回目 末梢神経薬理(4) 24 回目 中枢神経薬理(1) 25 回目 中枢神経薬理(2) 26 回目 中枢神経薬理(3) 27 回目 中枢神経薬理(4) 28 回目 局所麻酔薬 32 回目 内分泌系薬理 36 回目 消化器系薬理 40 回目 循環器系薬理 44 回目 オータコイド 48 回目 平滑筋薬理 56 回目 ビタミン 57 回目 救急薬理 58 回目 腎臓・泌尿系薬理(1) 59 回目 腎臓・泌尿系薬理(2) 60 回目 まとめ及び問題演習			
		(実習) 29-31 回目 生物学的検定法(1-3) 33-35 回目 中枢神経興奮薬・抑制薬(1-3) 37-39 回目 神経筋接合部の薬物(1-3) 41-43 回目 自律神経薬理(1-3) 45-47 回目 薬物による疼痛除去(1-3) 49-51 回目 防腐薬・腐食薬(1-3) 52 回目 発表会の準備と注意点 53-55 回目 実習発表会(1-3)	
キーワード	薬物, 薬理作用, 作用機序		
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第7版):医歯薬出版 実習書:配布する		
成績評価の方法	3 年前期末の定期試験で、筆記試験を行ない、60 点以上得点すれば合格である。		
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。実習は特別な理由がない限り、欠席をしないこと		
備考(学生へのメッセージ)	授業は原則的にシラバスに沿って行う。講義で受けた知識を、薬理学実験において、君たちの手で確認する。講義の邪魔になると判断したときには、厳格に対応します。お互い気持ちの良い講義・実習になるように、協力をお願いします。		
実務経験のある教員による授業科目	なし		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	火	1	【総論】薬理学序論 薬理学の歴史、薬理学の概念、薬理学はどういう学問であるのか	筑波	講義室3A
2回	4	7	月	4	薬理作用の機序 薬理作用の様式、薬理作用の分類について	筑波	講義室3A
3回	4	7	月	5	用量と薬理作用 用量－反応曲線、有効量、中毒量、致死量、ED50、LD50、治療係数	筑波	講義室3A
4回	4	7	月	6	生理活性物質 神経伝達物質・オータコイド・ホルモン・サイトカイン・成長因子について	筑波	講義室3A
5回	4	8	火	1	細胞内情報伝達(1)	筑波	講義室3A
6回	4	14	月	4	細胞内情報伝達(2)	筑波	講義室3A
7回	4	14	月	5	受容体と薬物(1) 薬物と受容体の概念およびその情報伝達について	筑波	講義室3A
8回	4	14	月	6	受容体と薬物(2) 薬物と受容体の概念およびその情報伝達について	筑波	講義室3A
9回	4	15	火	1	イオンチャネルと薬物 イオンチャネルに作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
10回	4	21	月	4	酵素と薬物 酵素に作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
11回	4	21	月	5	トランスポーターと薬物 トランスポーターに作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
12回	4	21	月	6	薬物動態(1) 薬物動態学の概念、生体膜通過機構、薬物トランスポーター、	筑波	講義室3A
13回	4	22	火	1	薬物動態(2) 薬物の適用について	筑波	講義室3A
14回	4	28	月	4	薬物動態(3) 体内における薬物の動きを吸収、分布、代謝、排泄の各段階について	筑波	講義室3A
15回	4	28	月	5	薬物の作用因子 薬物耐性、脱感作、薬物依存、薬物の蓄積について	筑波	講義室3A
16回	4	28	月	6	薬物の連用と併用、相互作用 協力作用、拮抗作用、薬物の相互作用、薬力学的相互作用、 薬物動態学的相互作用について	筑波	講義室3A
17回	5	12	月	4	副作用と有害作用 一般的有害作用、歯科領域における副作用と有害作用、 副作用の予知と回避	筑波	講義室3A
18回	5	12	月	5	薬物と医薬品(1) 医薬品の適応、開発および薬害について	坂井	講義室3A
19回	5	12	月	6	薬物と医薬品(2) 医薬品の適応、開発および薬害について	坂井	講義室3A
20回	5	13	火	1	【各論】末梢神経系薬理(1) 末梢神経系の分類	筑波	講義室3A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
21回	5	19	月	4	末梢神経系薬理(2) 神経節、神経筋接合部に作用する薬物について	筑波	講義室3A
22回	5	19	月	5	末梢神経系薬理(3) コリン作動性神経、コリン作動性薬物、コリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室3A
23回	5	19	月	6	末梢神経系薬理(4) アドレナリン作動性神経、アドレナリン作動性薬物、 アドレナリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室3A
24回	5	20	火	1	中枢神経薬理(1) 全身麻酔薬、アルコール、催眠薬および鎮静薬について	筑波	講義室3A
25回	5	26	月	4	中枢神経薬理(2) 麻薬性鎮痛薬、向精神薬について	筑波	講義室3A
26回	5	26	月	5	中枢神経薬理(3) 中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬について	筑波	講義室3A
27回	5	26	月	6	中枢神経薬理(4) 脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬について	筑波	講義室3A
28回	5	27	火	1	局所麻酔薬 局所麻酔薬の作用機序と臨床応用、使用時の注意点について 実習の注意点	坂井	講義室3A
29回	6	2	月	4	生物学的検定法(1) 全身麻酔薬投与によるアップアンドダウン法の実験	全教員	実習室5C
30回	6	2	月	5	生物学的検定法(2) ED50、LD50の計算、副作用の予知と回避	全教員	実習室5C
31回	6	2	月	6	生物学的検定法(3) 薬物の併用効果、相乗作用、相加作用についての実験	全教員	実習室5C
32回	6	3	火	1	内分泌系薬理 代表的なホルモンと、それらの過剰症および欠乏症、 ホルモン製剤 について	筑波	講義室3A
33回	6	9	月	4	中枢神経興奮薬・抑制薬(1) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
34回	6	9	月	5	中枢神経興奮薬・抑制薬(2) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
35回	6	9	月	6	中枢神経興奮薬・抑制薬(3) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
36回	6	10	火	1	消化器系薬理 消化ホルモン、健胃薬、消化薬、潰瘍治療薬、下痢薬	筑波	講義室3A
37回	6	16	月	4	神経筋接合部の薬物(1) 骨格筋を用いて、アセチルコリンによる収縮作用を観察する。	全教員	実習室5C
38回	6	16	月	5	神経筋接合部の薬物(2) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
39回	6	16	月	6	神経筋接合部の薬物(3) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
40回	6	17	火	1	循環系薬理 心不全治療薬、不整脈治療薬、狭心症治療薬、高血圧薬治療薬について	筑波	講義室3A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
41回	6	23	月	4	自律神経薬理(1) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋収縮作用を観察する	全教員	実習室5C
42回	6	23	月	5	自律神経薬理(2) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
43回	6	23	月	6	自律神経薬理(3) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
44回	6	24	火	1	オータコイド オータコイドとは何か、化学反応、生合成、生体内の役割について 生体アミン、エイコサノイド、ポリペプチド類について	筑波	講義室3A
45回	6	30	月	4	薬物による疼痛除去(1) 動物を用いて、麻薬性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬の違いを観察する	全教員	実習室5C
46回	6	30	月	5	薬物による疼痛除去(2) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
47回	6	30	月	6	薬物による疼痛除去(3) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
48回	7	1	火	1	平滑筋・呼吸筋薬理 平滑筋に作用する生理活性物質と薬理、呼吸興奮薬、 呼吸鎮静薬について	坂井	講義室3A
49回	7	7	月	4	防腐薬・腐食薬(1) 酸、アルカリ、重金属、フェノール類、アルデヒド類、 ハロゲン等の消毒薬の粘膜に対する作用を観察する	全教員	実習室5C
50回	7	7	月	5	防腐薬・腐食薬(2) 大腿骨からのカルシウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
51回	7	7	月	6	防腐薬・腐食薬(3) 大腿骨からのカルシウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
52回	7	8	火	1	発表会の準備と注意点・グループ分け 進行係、発表の順番等をさめる	坂井	講義室3A
53回	7	14	月	4	実習発表会(1) 生物学的検定法、中枢神経興奮薬に関する発表と質疑応答	全教員	講義室3A
54回	7	14	月	5	実習発表会(2) 中枢神経抑制薬、自律神経薬理に関する発表と質疑応答 発表と質疑応答	全教員	講義室3A
55回	7	14	月	6	実習発表会(3) 薬物による疼痛除去、防腐薬および腐食薬に関する発表と質疑応答	全教員	講義室3A
56回	7	15	火	1	ビタミン ビタミンの概説、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンについて	坂井	講義室3A
57回	7	22	火	1	救急薬理 救急時に使用する薬物、救急用薬物と適応症	筑波	講義室3A
58回	7	28	月	2	腎臓・泌尿系薬理 (1) 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	佐藤	講義室3A
59回	7	28	月	3	腎臓・泌尿系薬理 (2) 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	佐藤	講義室3A
60回	7	28	月	6	まとめ及び問題演習	筑波	講義室3A

口腔生命科学各論 I (3 年次生)

(1) 口腔解剖学及び同実習	(3 年) 88
(2) 口腔組織学及び同実習	(3 年) 90
(3) 口腔生理学	(3 年) 93
(4) 口腔生化学	(3 年) 95
(5) 歯科理工学実験	(3 年) 98
(6) 口腔病理学及び同実習	(3 年) 101
(7) 口腔微生物学実習	(3 年) 105
(8) 歯科薬理学	(3 年) 107
(9) 医学統計学	(3 年) 109
(10) 歯科法医学	(3 年) 111

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 金・2～3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024201		
科目ナンバリング・コード	DNGD22151981		
授業科目名/(英語名)	口腔解剖学及び同実習/ (Oral Anatomy and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部 解剖実習室、講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一 oyamada@		
授業の概要 口腔領域の基本構造並びに諸器官の相互位置関係を解剖学的に学習する。あわせて、病態や機能と関連付けて思考することができる応用力を養う。また、天然歯の鑑別を通して歯の形態や咬合などの理解を深める。ヒトの歯の一般的な形態を理解し、各歯種の特徴、各歯種間の相違点及び歯種内で各歯を識別する能力を養う。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: ヒトの歯の形態について、歯列、歯種間、歯種内における各歯の解剖学的特徴を理解したうえで、さらに歯の配列と咬合、歯の異常と年齢的变化について理解する。			
個別行動目標 SBOs:		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
(1) 歯の構造と機能を説明できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
(2) 各歯の特徴を説明できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
(3) 歯種を鑑別できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
(4) 歯と顎骨の進化について説明できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
(5) 乳歯と永久歯の違いを説明できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
(6) 咬合の定義を説明できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
(7) 歯の退化について説明できる。		E-2-2)-④, E-3-1)-②	
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 義及び歯の鑑別を行う。適宜、プリント、模型、スライド等を使用する。原則として標本または模型を提示しながら行う。			
授業内容 1-2 回目 歯の解剖学総論 (1) 3-4 回目 歯の解剖学総論 (2) 5-6 回目 永久歯(切歯)の形態 7-8 回目 永久歯(犬歯)の形態 9-10 回目 永久歯(小臼歯)の形態 (1) 11-12 回目 永久歯(小臼歯)の形態 (2) 13-14 回目 永久歯(大臼歯)の形態 (1) 15-16 回目 永久歯(大臼歯)の形態 (2) 17-18 回目 乳歯の形態 (1) 19-20 回目 乳歯の形態 (2) 21-22 回目 歯の配列と咬合 23-24 回目 歯の異常と歯の年齢的变化 25-27 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (1) 28-30 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (2) 31-33 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (3) 34-36 回目 口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験			
教科書・教材・参考書	教科書: 歯の解剖学(藤田恒太郎著、金原出版) 参考書: 歯の解剖学入門(赤井三千男ら著、医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	3年次前期試験期間中に筆記試験、歯の鑑別試験を行い、成績が100点満点で60点以上の者を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義には毎回出席し、ノートを取る。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。		
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分予習を行っておくこと。		
実務経験のある教員による授業科目	・小山田 常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～2回	4	4	金	2～3	歯の解剖学総論(1) 歯とは何か、歯の保持、歯の機能、外形、内部構造、歯周組織など	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
3～4回	4	11	金	2～3	歯の解剖学総論(2) 歯の種類と名称、歯の記号、歯式、方向用語、各部の名称、歯に共通する特徴など	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
5～6回	4	18	金	2～3	永久歯(切歯)の形態	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
7～8回	4	25	金	2～3	永久歯(犬歯)の形態	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
9～10回	5	2	金	2～3	永久歯(小臼歯)の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
11～12回	5	9	金	2～3	永久歯(小臼歯)の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
13～14回	5	16	金	2～3	永久歯(大臼歯)の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
15～16回	5	23	金	2～3	永久歯(大臼歯)の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
17～18回	5	30	金	2～3	乳歯の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
19～20回	6	6	金	2～3	乳歯の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
21～22回	6	13	金	2～3	歯の配列と咬合	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
23～24回	6	20	金	2～3	歯の異常と歯の年齢的变化	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
25～27回	6	27	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(1)	小山田常一	解剖実習室(歯)
28～30回	7	4	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(2)	小山田常一	解剖実習室(歯)
31～33回	7	11	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(3)	小山田常一	解剖実習室(歯)
34～36回	7	25	金	1～3	口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験	小山田常一	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q		曜日・校時 水・4～7		必修選択 必修		単位数 2	
科目番号		25024202					
科目ナンバリング・コード		DNGD22161981					
授業科目名/(英語名)		口腔組織学及び同実習/ (Oral Histology and Practice)					
対象年次 3 年次		講義形態 講義・実習形式		教室 講義室 3A(一部3B)、実習室 5B			
対象学生(クラス等)				科目分類 口腔生命科学各論 I			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松下祐樹/yukimatsushita@nagasaki-u.ac.jp /教授室 /095-819-7630(内 7632)/17:00～18:00							
担当教員(オムニバス科目等)		講義:松下祐樹、森石武史、野口東美、新井祐貴(非常勤講師) 実習:松下祐樹、森石武史、野口東美					
授業の概要 組織学とは、顕微鏡を用いて正常組織の構造と機能を解析する学問である。口腔組織学では、将来歯科医師として病理変化を正確に判断できるように、口腔内組織と口腔周囲組織の正常な構造と機能に関する知識の習得を目指す。							
授業到達目標 一般目標 GIO: 頭頸部、口腔、及び隣接領域、消化管の基本的な構造と機能を理解する。 歯と歯周組織の常態を理解する。 個別行動目標 SBOs: 1. 消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 2. 扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。 3. 口唇と口腔粘膜の分類と特徴を説明できる。 4. 舌の構造と機能を説明できる。 5. 唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。 6. 味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。 7. 歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる。 8. 歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる。 9. 歯髄の構造と機能を説明できる。 10. 歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。							
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 C-3-4)-(7)-① E-2-1)-⑩ E-2-2)-② E-2-2)-③ E-2-2)-⑥ E-2-2)-⑩ E-3-1)-① E-3-1)-④ E-3-1)-⑤ E-3-1)-⑥							
対応するディプロマポリシー DP 1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。							
授業方法(学習指導法) パワーポイントとプリントを用いた講義、および組織標本の観察とスケッチを行う。							
授業内容 1 回目 消化管①ー食道・胃(講義・実習) 講義:消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴 実習:ヒト食道・噴門・胃底・幽門の標本の顕微鏡観察 2 回目 消化管②ー小腸・大腸(講義・実習) 講義:小腸と大腸の構造的、機能的特徴 実習:ヒト十二指腸・回腸・空腸・虫垂・結腸の標本の顕微鏡観察 3 回目 口腔諸器官①ー口腔粘膜・舌・扁桃(講義・実習) 講義:口腔粘膜、舌(味蕾)、扁桃の構造的、機能的特徴 実習:ヒト口唇・頬・舌・硬口蓋、モルモット舌の標本の顕微鏡観察 4 回目 口腔諸器官②ー唾液腺(講義・実習) 講義:唾液腺の基本構造、大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴・機能的相違点 実習:ヒト大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の標本の顕微鏡観察 5 回目 消化管・口腔諸器官の総括①:消化管・口腔諸器官のまとめ 6 回目 消化管・口腔諸器官の総括②:消化管・口腔諸器官についての知識の確認 7 回目 歯の発生①(講義・実習) 講義:歯の発生の概略、歯牙組織の起源、歯胚発生段階の分類、歯胚発生における上皮間葉相互作用と分子調節 実習:ヒト8週胎児歯胚およびマウス歯胚の標本の顕微鏡観察 8 回目 歯の発生②(講義・実習) 講義:歯冠形成過程における象牙質・エナメル質の形成過程 実習:ヒト4ヶ月および6ヶ月胎児の歯胚脱灰標本の顕微鏡観察 9 回目 歯の発生③(講義・実習) 講義:歯根と歯周組織の発生、歯根・歯周組織形成におけるヘルトヴィッヒの上皮鞘と歯小囊の役割 実習:ヒト6ヶ月胎児歯胚脱灰標本およびマウス歯胚脱灰標本の顕微鏡観察 10 回目 エナメル質(講義・実習) 講義:エナメル小柱の組織学的特徴、エナメル質に特徴的な構造(エナメル紡錘・エナメル叢等)、成長線(横紋等) 実習:ヒト歯牙研磨標本の顕微鏡観察 11 回目 象牙質・歯髄(講義) 象牙質細管と基質からなる象牙質の基本構造、場所による象牙質の分類、石灰化に起因する構造・成長線							

12 回目	歯髓の組織学的特徴(象牙質形成層と固有歯髓) 象牙質・歯髓(実習) ヒト歯牙研磨標本および脱灰標本の顕微鏡観察
13 回目	歯周組織・顎関節(講義) 歯周組織の組織学的特徴、歯根膜を介した歯と歯槽骨の結合様式の構造的理解、顎関節の組織学的特徴
14 回目	歯周組織(実習) ヒト歯牙脱灰標本の顕微鏡観察
15 回目	歯・歯周組織・顎関節の総括: 歯・歯周組織・顎関節の発生および組織学的特徴のまとめ
キーワード	口腔軟組織、消化管、歯胚、歯牙組織、顕微鏡
教科書・教材・参考書	教科書: 入門組織学 改訂第2版(牛木辰男著、南江堂)、口腔の発生と組織(田畑純著、南山堂) 参考書: カラーアトラス口腔組織発生学(磯川桂太郎ら編、わかば出版) 口腔組織・発生学 第2版(脇田稔ら編、医歯薬出版) バーチャルスライド口腔組織学(田畑純ら著、羊土社) 教材: 授業プリント、ヒトおよび各種動物の組織標本
成績評価の方法・基準等	筆記試験と実習試験を、それぞれ中間試験と定期試験に分けて行う。また、実習のミニテストやスケッチの評価も行い、総合的に評価する。詳細は講義開始時、およびLACSで提示する。実習試験はパワーポイントによる出題形式で行う。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	2年次の組織学をよく復習しておきましょう。
実務経験のある教員による授業科目	・松下 祐樹／神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科、東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科、長崎大学病院口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験／歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。 ・新井 祐貴／東京医科歯科大学歯学部附属病院義歯外来における歯科診療の実務経験／歯科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	水	4～7	消化管①－食道・胃 講義:消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴 実習:ヒト食道・噴門・胃底・幽門の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3B・実習室5B
2回	4	9	水	4～7	消化管②－小腸・大腸 講義:小腸と大腸の構造的、機能的特徴 実習:ヒト十二指腸・回腸・空腸・虫垂・結腸の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
3回	4	16	水	4～7	口腔諸器官①－口腔粘膜・舌・扁桃 講義:口腔粘膜、舌(味蕾)、扁桃の構造的、機能的特徴 実習:ヒト口唇・頬・舌・硬口蓋、モルモット舌の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
4回	4	23	水	4～7	口腔諸器官②－唾液腺 講義:唾液腺の基本構造と大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴 実習:ヒト大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
5回	4	30	水	4～7	消化管・口腔諸器官の総括① 消化管(食道・胃・小腸・大腸)についてのまとめ 口腔諸器官(口腔粘膜・舌・扁桃・唾液腺)についてのまとめ	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
6回	5	7	水	4～7	消化管・口腔諸器官の総括② 消化管および口腔諸器官に関する知識の確認	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
7回	5	21	水	4～7	歯の発生① 講義:歯の発生の概略、歯牙組織の起源、歯胚の初期発生 実習:ヒト8週胎児歯胚およびマウス歯胚の標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
8回	5	22	木	4～7	歯の発生② 講義:歯冠形成過程 実習:ヒト4ヶ月および6ヶ月胎児の歯胚脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
9回	5	28	水	4～7	歯の発生③ 講義:歯根形成過程 実習:ヒト6ヶ月胎児歯胚脱灰標本およびマウス歯胚脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
10回	6	4	水	4～7	エナメル質 講義:エナメル質の組織学的特徴 実習:ヒト歯牙研磨標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
11回	6	11	水	4～7	象牙質・歯髄(講義) 講義:象牙質と歯髄の組織学的特徴	松下・森石・野口	講義室3A
12回	6	18	水	4～7	象牙質・歯髄(実習) 実習:ヒト歯牙研磨標本および脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
13回	6	25	水	4～7	歯周組織・顎関節(講義) 講義:歯周組織(セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉)、顎関節の組織学的特徴	松下・森石・野口	講義室3A
14回	7	2	水	4～7	歯周組織(実習) 実習:ヒト歯牙脱灰標本における歯周組織の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
15回	7	9	水	4～7	歯・歯周組織・顎関節の総括 歯・歯周組織・顎関節の発生および組織学的特徴のまとめ	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B

年度 2025 学期 3・4Q		曜日・校時 金・2～3		必修選択 必修		単位数 1.5	
科目番号		25024203					
科目ナンバリング・コード		DNKD22171982					
授業科目名/(英語名)		口腔生理学/ (Oral physiology)					
対象年次 3 年次		講義形態 講義・実習形式		教室 講義室 3A(一部3B)			
対象学生(クラス等)				科目分類		口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 中村渉/wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A 棟 4 階 401 号室/095-819-7638(内 7636)/16:00～18:00							
担当教員(オムニバス科目等)		中村 渉、内田仁司、田原優(広島大学)上野尚雄(国立がん研究センター中央病院)、小柳 悟(九州大学薬学部)、柏崎晴彦(九大歯学部)、大島昇平(北大歯学部)、三嶋博之(原爆後障害医療研究所)金山健夫(国立がん研究センター中央病院)					
授業の概要							
口腔顔面部位の組織と器官の正常な機能を理解し、これらを生体として統合的に理解する。							
授業到達目標							
一般目標 GIO: 歯科口腔医学において、口腔領域の正常な機能を知り、疾患の予防・診断を適切に行い、機能維持を図れるようになるために、生体の特性を理解する。【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】							
個別行動目標 SBOs: 1. 生命科学者としての探求心を養成する。1. A-8-1) 2. 能動的な学びへの鍛錬を行う。2. A-9-1) 3. 顎顔面口腔領域を構成する細胞、組織と器官の機能を理解する。3. C-3-3), C-3-4), E-2-1), E-2-2)							
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。							
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクターや板書で授業を進め、必要に応じてプリントを配布する。							
授業内容							
1 回目 1 0 月 3 日 (金) 加齢口腔生理学序論 2 回目 1 0 月 1 0 日 (金) 唾液腺と唾液 3 回目 1 0 月 1 7 日 (金) 時間栄養学 4 回目 1 0 月 2 4 日 (金) 発声・言語 5 回目 1 0 月 3 1 日 (金) 臨床加齢口腔生理学 6 回目 1 1 月 7 日 (金) 高齢者の生理学的特徴 7 回目 1 1 月 1 4 日 (金) 味覚 8 回目 1 1 月 2 1 日 (金) 咀嚼・嚥下 9 回目 1 1 月 2 8 日 (金) 顎位・顎運動 10 回目 1 2 月 5 日 (金) 口腔機能と時間生理学 11 回目 1 2 月 1 2 日 (金) 痛覚 12 回目 1 2 月 1 9 日 (金) 口腔遺伝学 13 回目 1 月 9 日 (金) 口腔生理学から生涯歯科学へ 14 回目 1 月 1 6 日 (金) 口腔生理学問題演習 15 回目 1 月 3 0 日 (金) 加齢口腔生理学まとめ							
キーワード		嚥下, 唾液, 消化酵素, 栄養素, 嗅覚, 味覚, 歯痛, 発声, 顎運動					
教科書・教材・参考書		教科書： 基礎歯科生理学 第 7 版, 岩田・井上・舩橋・加藤編, 医歯薬出版 参考書1: Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 13 th Edition 参考書2: 標準生理学 第 9 版, 本間研一監修, 医学書院					
成績評価の方法・基準等		期末試験の成績により評価する。					
受講要件(履修条件)		なし					
備考(学生へのメッセージ)		生理学を復習しておくこと。					
実務経験のある教員による授業科目		・中村 渉/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ・上野 尚雄/国立がん研究センターでの歯科臨床実務経験/国立がん研究センター歯科医長の立場より、臨床加齢口腔生理学の講義を担当している。 ・三嶋 博之/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ・柏崎 晴彦/九州大学病院高齢者歯科における歯科臨床実務経験/高齢者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ・大島 昇平/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学の講義を担当する。					

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	金	2～3 (II)	口腔生理学序論	中村 渉	講義室3B
2回	10	10	金	2～3 (II)	唾液の生理的機能/唾液の分泌機序	内田 仁司	講義室6B
3回	10	17	金	2～3 (II)	時間栄養学	田原優 (広島大学)	講義室3A
4回	10	24	金	2～3 (II)	発声の機序、共鳴と構音について	徳田 功 (立命館大)	講義室6B
5回	10	31	金	2～3 (II)	口腔機能の臨床的加齢変化	上野尚雄 (国立がんセン ター中央病院)	講義室3B
6回	11	7	金	2～3 (II)	口腔機能の加齢変化と全身管理	柏崎 晴彦 (九大歯学部)	講義室3A
7回	11	14	金	2～3 (II)	味覚:味の受容機構と情報伝達	内田 仁司	講義室3A
8回	11	21	金	2～3 (II)	咀嚼・嚥下の概念, 咀嚼・嚥下運動のメカニズムと調節	大島昇平 (北大歯学部)	講義室6B
9回	11	28	金	2～3 (II)	顎位・顎運動・顎反射の生理機構	金山健夫 (国立がんセン ター中央病院)	講義室6B
10回	12	5	金	2～3 (II)	口腔機能と時間生理学	中村孝博 (明治大学農学 部)	講義室3A
11回	12	12	金	2～3 (II)	痛覚の生理メカニズム	小柳 悟 (九大薬学部)	講義室3A
12回	12	19	金	2～3 (II)	口腔生理を制御する分子遺伝学	三嶋博之 (長崎大原研)	講義室3A
13回	1	9	金	2～3 (II)	加齢口腔生理学(成長と発達から機能変容)	中村 渉	講義室3A
14回	1	16	金	2～3 (II)	口腔生理学問題演習	中村 渉	講義室3A
15回	1	30	金	2～3 (II)	口腔生理学まとめ	中村 渉 /内田仁司	講義室3A

年度 2025 学期 3・4Q	曜日・校時 金・4～5	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25024204		
科目ナンバリング・コード	DNGD22181982		
授業科目名/(英語名)	口腔生化学/(Oral Biochemistry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 門脇知子/tomokok@nagasaki-u.ac.jp / A 棟 2 階フロンティア口腔科学分野教授室/095-819-8504(内 8504)/月-金曜 13:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	門脇知子、佐藤啓子、小野寺貴恵、岡元邦彰(非常勤講師/岡山大・教授)、武部克希(非常勤講師/岡山大・助教)		
授業の概要			
細胞生物学入門、生化学で学んだ知識を元に、口腔領域、結合組織、硬組織に関する生化学を理解する。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 口腔生化学の知識を習得するとともに、科学的論理的な考え方の重要性を理解する。		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
個別行動目標 SBOs:			
1. 分子の構造の特徴と、その結果発揮しうる機能の関係を説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)	
2. 硬組織の発生と進化を説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)	
3. 結合組織の構造、機能、成分、及びそれらの特徴を説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)	
4. 硬組織の構造、石灰化と吸収のメカニズムを説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)	
5. 血清カルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-2-1), C-2-4), C-3-4)	
6. 唾液成分の働きと齲蝕のメカニズムを説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), E-2-2)	
7. 炎症と免疫及び発がん機構を説明できる。		A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)	
対応するディプロマポリシー			
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
教科書の内容を中心に、プロジェクターや板書を用いた講義を行う。必要に応じてプリントを配布する。予習、復習に LACS を活用する場合もある。			
授業内容			
1 回目	1 章	口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	門脇 知子
2 回目	4 章	結合組織と上皮組織の生化学 1	門脇 知子
3 回目	4 章	結合組織と上皮組織の生化学 2	門脇 知子
4 回目	5 章	骨、歯と歯周組織の有機成分とその代謝	門脇 知子
5 回目	6 章	骨と歯の無機成分と石灰化の機構	小野寺貴恵
6 回目	8 章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構 1	門脇 知子
	3 章	骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	
7 回目	8 章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構2	門脇 知子
	3 章	骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	
8 回目	7 章	硬組織の形成と吸収のしくみ	岡元 邦彰
9 回目	9 章	唾液の生化学	門脇 知子
10 回目	10 章	プラークの生化学	佐藤 啓子
11 回目	11 章	齲蝕の生化学	佐藤 啓子
12 回目	12 章	炎症と免疫	門脇 知子
13 回目	2 章	がんはどうしてできるか	門脇 知子
14 回目	特別講義	タンパク質の構造と機能	武部 克希
15 回目	総括	口腔生化学演習	門脇・佐藤
キーワード	結合組織、硬組織、コラーゲン、カルシウム、ヒドロキシアパタイト、酵素反応、齲蝕、免疫、発がん		
教科書・教材・参考書	教科書:口腔生化学 第6版 早川太郎他 著 (医歯薬出版) (2018 年発行) 参考書:唾液 歯と口腔の健康 (医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期試験および講義前後に提出する課題レポート、小テストを総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	なし		

備考(学生へのメッセージ)	重要な事項は小テストが実施される。必要に応じてレポートを提出する。 教科書での予習復習が必須。
実務経験のある教員による授業科目	門脇知子/九州大学病院における歯科臨床実務経験/歯周病科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 佐藤啓子/九州大学病院および開業医における歯科臨床実務経験/義歯補綴科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 岡元邦彰/宮崎大学医学部付属病院における歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 武部克希/大阪大学歯学部付属病院における歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	金	4～5	1章 口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	門脇 知子	講義室3B
2回	10	10	金	4～5	4章 結合組織と上皮組織の生化学 1	門脇 知子	講義室6B
3回	10	17	金	4～5	4章 結合組織と上皮組織の生化学 2	門脇 知子	講義室3A
4回	10	24	金	4～5	5章 骨, 歯と歯周組織の有機成分とその代謝	門脇 知子	講義室6A
5回	10	31	金	4～5	6章 骨と歯の無機成分と石灰化の機構	小野寺貴恵	講義室3A
6回	11	7	金	4～5	8章 血清カルシウムの恒常性とその調節機構 1 3章 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子	講義室3A
7回	11	14	金	4～5	8章 血清カルシウムの恒常性とその調節機構 2 3章 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子	講義室3A
8回	11	21	金	4～5	7章 硬組織の形成と吸収のしくみ	岡元 邦彰	講義室6B
9回	11	28	金	4～5	9章 唾液の生化学	門脇 知子	講義室3A
10回	12	5	金	4～5	10章 プラークの生化学	佐藤 啓子	講義室3A
11回	12	12	金	4～5	11章 齲蝕の生化学	佐藤 啓子	講義室1C
12回	12	19	金	4～5	12章 炎症と免疫	門脇 知子	講義室3A
13回	1	9	金	4～5	2章 がんはどうしてできるか	門脇 知子	講義室3A
14回	1	16	金	4～5	特別講義 「タンパク質の構造と機能」	武部 克希	講義室3A
15回	1	30	金	4～5	総括 口腔生化学演習	門脇 知子 佐藤 啓子	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 水・4～7	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024205		
科目ナンバリング・コード	DNGD22191985		
授業科目名/(英語名)	歯科理工学実験/ (Laboratory Works of Dental Materials Science)		
対象年次 3 年次	講義形態 実験形式	教室 実習室 5C・講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、阿部薫明、バラネザハド有礼左、岩沼健児(非常勤講師)		
授業の概要			
各種歯科材料の成分、構造、特性、硬化反応などを理解するとともに、材料の適切な選択基準や取り扱い方法を身につける。歯科診療のチームリーダーとしての歯科医師が把握していなければならない種々の歯科材料について実習し、知識を確実に自分のものとするための実験科目である。 歯科材料の性質をよく理解し、その特性を活かした使用が出来るようになるための技能を確実に身につける。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 歯科医療における材料についての各種実験を行い、歯科材料の基礎科学と応用科学に関する学問を習得する			
個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 ○各種の歯科材料の成分、硬化反応、特性などを説明できる。 D-1, D-2 ○歯科材料の使用上ならびに保管上の注意点を説明できる。 D-1, D-2 ○修復物作製に必要な器械・器具類を正しく取り扱うことが出来る。 D-1, D-2			
対応するディプロマポリシー			
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
クラス全体を5班に分け、週ごとに実験テーマをローテーションする。担当教員の指導のもとに、主として修復物の作製工程で用いられる種々の歯科材料の硬化過程および加熱過程における物性変化を測定し、各自でレポートを作成する。			
授業内容			
五つの実験テーマを各担当教員が同時に開設しており、各グループは毎週それぞれのテーマの実験を行う。 1回目: 歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し、実験に対する心構えを喚起する。さらに実験データのまとめ方、ならびにレポートの作成方法について解説する。 2回目～6 回目:グループ別実験 テーマ①: 歯科用レジンの餅状化時間と重合反応 テーマ②: アルジネート印象材のゲル化時間、弾性印象材の弾性比較と硬化挙動 テーマ③: 歯科用石膏の硬化時間 テーマ④: 歯科用石膏系埋没材の硬化膨張、吸水膨張、歯科用石膏の水和反応の観察 テーマ⑤: 歯科用埋没材の熱膨張 7 回目: グループごとに選択した実験テーマについて、得られた実験結果や考察等をクラス全体に対して液晶プロジェクターなどを用いて発表し、質疑応答する。			
キーワード	歯科材料, 石膏, 埋没材, 印象材, レジン, ワックス		

教科書・教材・参考書	○歯科理工学実験書, 長崎大学・生体材料学分野 ○スタンダード歯科理工学, 学建書院 ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料科学事典, 学建書院 ○歯科理工学教育用語集, 医歯薬出版
成績評価の方法・基準等	それぞれの実験テーマに対してレポートを提出させ, 採点評価する(90%)。また, グループ別発表会を別個に評価する(10%)。レポートは実験内容の理解度ならびに測定データが十分に議論されているかなどを中心に評価する。
受講要件(履修条件)	実験を実施しなければレポートを作成できないため, 必ず出席すること。正当な理由がある場合は, 再実験を認める。
備考(学生へのメッセージ)	配布する歯科理工学実験書を必ず予習しておくことが重要である。
実務経験のある教員による授業科目	岩沼 健児／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／自身の診療経験を活かし歯科材料の適切な選択基準や取り扱いについて指導する

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	水	4～7	オリエンテーション 歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し、実験への心構えを喚起する。実験データのまとめ方ならびにレポートの作成方法について解説する。	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
2回	10	8	水	4～7	歯科材料の性質① 五つの実験テーマを同時開設しており、5班に分けた各班が週ごとに実験テーマを順番に回り、消化する。テーマ①: 歯科用レジンの餅状化時間と重合反応	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
3回	10	15	水	4～7	歯科材料の性質② テーマ②: アルジネート印象材のゲル化時間、弾性印象材の弾性比較と硬化挙動	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
4回	10	22	水	4～7	歯科材料の性質③ テーマ③: 歯科用石膏の硬化時間	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
5回	10	29	水	4～7	歯科材料の性質④ テーマ④: 歯科用石膏系埋没材の硬化膨張、吸水膨張、歯科用石膏の水和反応の観察	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
6回	11	5	水	4～7	歯科材料の性質⑤ テーマ⑤: 歯科用埋没材の熱膨張	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
7回	11	12	水	4～7	歯科材料の性質①～⑤ まとめ	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	実習室5C
8回	11	19	水	4～7	歯科材料の性質①～⑤ 実験結果と考察について各グループで液晶プロジェクターを用いてプレゼンテーションする。	渡邊・阿部・ バラ・岩沼	講義室3A

年度 2025 学期 3・4Q	曜日・校時 火・2～5	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25024212		
科目ナンバリング・コード	DNGD22201981		
授業科目名/(英語名)	口腔病理学及び同実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室	講義室 3A、実習室 5B
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 片瀬 直樹/katase@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野准教授室/095-819-7645(内 7645)/17:00～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	片瀬直樹、永野健一、藤田修一		
授業の概要及び位置づけ 前期の「病理学総論及び同実習」で学習した、病因、病理発生、病態、予後の基本的知識をもとに、病理学各論として顎口腔領域の疾患を解説する。4 年次以降に学ぶ臨床科目に直接関係しており、実際の歯科医療で遭遇する顎口腔領域の疾患の知識を習得することは極めて重要である。講義の進行にあわせて病理組織実習を行うが、実習は単に病理診断をつけることではなく、各疾患の講義内容を標本で確かめ、理解を深めることを目的とする。顎口腔病変の病理組織像は CBT や国家試験で視覚素材として用いられるので、十分に学修すること。本授業は基礎歯科医学と臨床歯科医学の橋渡しと位置づけられる。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 口腔病理学の講義では、歯科医療に関係する顎口腔領域の疾病の原因・発生機構・病態・予後を理解する。実習では各種顎・口腔疾病の組織学的変化を病理学的に解釈する。 個別行動目標 SBOs: 1. 唾液腺の非上皮性並びに腫瘍性疾患を列挙し、説明できる。 2. 口腔粘膜疾患を原因別に分類し、それぞれを説明できる。 3. 歯の発育異常を列挙できる。 4. 歯の機械的・化学的損傷を説明できる。 5. 歯の沈着物と着色を説明できる。 6. 抜歯創の治癒過程と合併症を説明できる。 7. 齲蝕の臨床的特徴、エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕・セメント質齲蝕を説明できる。 8. 象牙質とセメント質の増生、歯髄と歯根膜の石灰化を説明できる。 9. 歯髄の病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 10. 根尖部歯周組織の病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 11. 辺縁性歯周組織の病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 12. エプーリスを説明できる。 13. 骨、顎関節病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 14. 口腔領域の奇形を列挙し、発生を説明できる。 15. 顎口腔領域の老化を説明できる。 16. 顎口腔領域の嚢胞を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 17. 歯源性腫瘍を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 18. 顎口腔領域の非歯源性腫瘍を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。 19. 口腔潜在的悪性疾患と上皮性異形成を説明できる。			
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 E-2-4)-(8)-②～⑦, E-2-4)-(10)-⑨, E-2-4)-(11)-⑤ E-2-4)-(4)-①・②, E-2-4)-(3)-②・⑥・⑦, E-2-4)-(10)-①～③・⑤・⑦・⑨・⑩ E-3-1)-③ E-3-2)-①, E-3-3)-(1)-① E-3-2)-④ C-5-3)-④, E-2-4)-(3)-①・④ E-3-3)-(1)-① C-5-3)-②, C-5-2)-② E-3-2)-②, E-3-3)-(2)-① E-3-2)-②, E-3-3)-(2)-① E-3-2)-③, E-3-3)-(3)-① E-2-4)-(4)-① E-2-4)-(3)-⑥, E-2-4)-(7)-①・②, E-2-4)-(10)-⑥・⑦, E-2-4)-(2)-③・④ E-2-4)-(1)-①・② E-2-3)-④ E-2-4)-(5)-①・② E-2-4)-(6)-①～④ E-2-4)-(6)-①～④, E-2-4)-(10)-④ C-5-6)-③, E-2-4)-(6)-⑤～⑥			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは授業前に LACS に提示するので各自、印刷して講義に持参すること。実習はバーチャルスライドの学生間に差異のない画像によって行う。バーチャルスライドが使用不可の場合は、配布された標本の顕微鏡観察を行う。いずれもスケッチをとり、その所見を記載する。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本を解説する。学生は資料を LACS から印刷して持参し、不明な点は随時教員に質問すること。実習中にそれまでに終了した講義分の小テストを行うことがある。			

授業内容				
講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照 L (Lecture): 講義(講義室 3A)、P (Practice): 実習(実習室5B)				
1 週	L1 歯の発育異常	L2 歯の機械的・化学的損傷	L3 齲蝕	L4 象牙質とセメント質の増生、歯髄の石灰化
2 週	L5 歯髄の病変	P1～3 齲蝕、歯髄炎		
3 週	L6 根尖部歯周組織の病変	P4～6 根尖性歯周炎と関連疾患		
4 週	L7, 8 辺縁部歯周組織の病変	P7～9 辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症		
5 週	L9 口腔粘膜疾患	L10 口腔の発育異常	P9～10 口腔粘膜疾患	
6 週	L11 口腔癌	L12 口腔軟組織の腫瘍	L13 顎骨・顎関節の非腫瘍性病変	L14 顎骨・顎関節の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変
7 週	P11～14 口腔癌と口腔軟組織の腫瘍			
8 週	L15 顎骨・顎関節の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変		P15～17 顎骨・顎関節の病変	
9 週	L16, 17 唾液腺疾患	P18, 19 唾液腺非腫瘍性疾患		
10 週	L18 唾液腺腫瘍	P20～22 唾液腺腫瘍		
11 週	L19 細胞診と口腔病変の細胞像	P23～25 唾液腺腫瘍		
12 週	L20 口腔領域の嚢胞	P26～28 口腔領域の嚢胞		
13 週	L21 口腔領域の嚢胞	P29～31 口腔領域の嚢胞		
14 週	L22～24 歯原性腫瘍	P32～34 歯原性腫瘍		
15 週	P35～37 歯原性腫瘍			
キーワード	歯の発育異常、歯の機械的・化学的損傷、齲蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎、顎骨・顎関節病変、口腔領域の奇形、粘膜疾患、唾液腺疾患、嚢胞、腫瘍、老化、細胞診			
教科書・教材・参考書	1. 新口腔病理学 第3版 下野正基、高田隆編 (医歯薬出版) 2. Oral and Maxillofacial Pathology. 3rd ed. Neville BW, et al., eds. (Saunders, Elsevier) 3. 口腔病理アトラス 第2版 高木 實 編 (医歯薬出版) 4. 口腔病理カラーアトラス 第2版 石川梧郎 編 (文光堂) 授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能			
成績評価の方法・基準等	主に定期試験(筆記試験)の得点で評価するが、小テストの成績も考慮する。			
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の3/4以上の出席			
備考(学生へのメッセージ)	病理学総論の授業内容を理解しておくこと。			
実務経験のある教員による授業科目	・片瀬 直樹／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務の勤務経験をもとに、臨床病理診断学上重要なポイントを踏まえて病理学の解説を行うとともに、医療人としてふさわしい態度を習得させる。 ・永野健一／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務経験を元に、疾患による組織学的変化の解説を行い、医療者として必要な知識、学習態度を習得させる。 ・藤田 修一／長崎大学病院での病理診断実務経験／病理診断科・病理部で行っている病理診断をもとに口腔疾患の組織学的変化を解説する。			

日程表 講義							
No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	火	2	歯の発育異常 ・ 大きさ、形、構造、数、萌出、位置、咬合の異常	片瀬	講義室3A
2回	9	30	火	3	歯の機械的・化学的損傷、歯の沈着物と着色 ・ 咬耗、摩耗、アブフラクション、歯折、侵蝕症 ・ ペリクル、プラーク、歯石、着色	片瀬	講義室3A
3回	9	30	火	4	齲蝕 ・ 病因、誘因、分類 ・ エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕	片瀬	講義室3A
4回	9	30	火	5	齲蝕、象牙質とセメント質の増生、歯髄の石灰化 ・ セメント質齲蝕 ・ 第二・第三象牙質、象牙質粒、セメント質粒	片瀬	講義室3A
5回	10	7	火	2	歯髄の病変、根尖部歯周組織の病変 ・ 歯髄病変の原因、退行性病変、歯髄充血、歯髄炎、歯髄壊疽 ・ 根尖部膿瘍の進展	片瀬	実習室5B
6回	10	14	火	2	根尖部歯周組織の病変 ・ 原因、分類、根尖性歯周炎の各型 ・ 抜歯創の治癒過程、抜歯の合併症、歯性病巣感染	片瀬	実習室5B
7回	10	21	火	2	辺縁部歯周組織の病変 ・ 歯周組織の構造 ・ 歯周炎の原因 ・ 辺縁部歯周組織病変の分類、歯肉炎	片瀬	講義室6A
8回	10	21	火	3	辺縁部歯周組織の病変、歯科治療に伴う病変 ・ 慢性歯周炎の進行過程 ・ 慢性歯周炎と全身疾患の関連 ・ エプーリス、薬物性歯肉増殖症 ・ 慢性歯周炎の治療	片瀬	講義室3A
9回	10	28	火	2	口腔粘膜疾患 ・ 色素沈着、感染症、アフタ性口内炎 ・ 角化性病変、皮膚科的疾患、歯科治療に関連した口内炎	片瀬	講義室3A
10回	10	28	火	3	口腔の発育異常 ・ 口腔顎顔面領域の発生と口唇裂、口蓋裂、口腔顔面に異常をきたす症候群 ・ 口唇、舌、頬粘膜の奇形、フォーダイス顆粒	片瀬	講義室3A
11回	11	11	火	2	口腔癌 ・ 口腔潜在的悪性疾患と上皮性異形成 ・ 軟組織の腫瘍と腫瘍様病変	片瀬	講義室3A
12回	11	11	火	3	口腔軟組織の腫瘍 ・ 顎口腔領域の非歯原性腫瘍の由来と分類 ・ 良性腫瘍と腫瘍様病変	片瀬	講義室3A
13回	11	11	火	4	顎骨・顎関節の非腫瘍性病変 ・ 顎骨の骨折、骨髓炎、放射線骨壊死、MRONJ ・ 顎関節の病変	片瀬	講義室3A
14回	11	11	火	5	顎骨・顎関節の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変 ・ 線維性異形成症 ・ 骨形成病変、軟骨形成性病変	片瀬	講義室3A
15回	11	25	火	2	顎骨・顎関節の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変 ・ 巨細胞性病変 ・ 円形細胞腫瘍	片瀬	講義室3A
16回	12	2	火	2	唾液腺疾患 ・ 唾液腺の正常構造	片瀬	講義室3A
17回	12	2	火	3	唾液腺疾患 ・ 唾液腺の非腫瘍性疾患	片瀬	講義室3A
18回	12	9	火	2	唾液腺疾患 ・ 唾液腺の腫瘍性疾患	片瀬	講義室3A
19回	12	16	火	2	細胞診と口腔病変の細胞像 ・ 細胞診概説 ・ 口腔病変の細胞像	藤田	講義室3A
20回	12	23	火	2	口腔領域の嚢胞 ・ 嚢胞の定義、分類 ・ 歯原性嚢胞	片瀬	講義室3A
21回	1	6	火	2	口腔領域の嚢胞 ・ 非歯原性嚢胞 ・ 顎骨内偽嚢胞	片瀬	講義室3A
22回	1	13	火	2	歯原性腫瘍 ・ 歯原性腫瘍の特徴と分類	片瀬	講義室3A
23回	1	13	火	3	歯原性腫瘍 ・ 歯原性腫瘍の特徴と分類 ・ 良性腫瘍	片瀬	講義室3A
24回	1	13	火	4	歯原性腫瘍 ・ 悪性腫瘍	片瀬	講義室3A
25回	1	13	火	5	顎口腔領域の加齢変化 ・ 老化のメカニズム、サルコペニアとフレイル ・ 歯と歯周組織の変化・ 顎骨、粘膜、唾液腺の変化	片瀬	講義室3A

日程表 実習

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	10	7	火	3～5	齶蝕、歯髄炎、象牙質・セメント質の増生 ・ 齶蝕、急性化膿性歯髄炎、慢性潰瘍性歯髄炎、セメント質増生、象牙質粒、びまん性石灰化、セメント質粒	片瀬 永野	実習室 5B
4～6回	10	14	火	3～5	根尖性歯周炎と関連疾患 ・ 慢性根尖性化膿性歯周炎、歯肉膿瘍、歯性上顎洞炎、歯根肉芽腫、歯根嚢胞	片瀬 永野	実習室 5B
7～8回	10	21	火	4～5	辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症 ・ 辺縁性歯周炎、肉芽腫性エプーリス、骨形成性エプーリス、フェニトイン歯肉増殖症	片瀬 永野	実習室 5B
9～10回	10	28	火	4～5	口腔粘膜病変 ・ アミロイドーシス、扁平苔癬、天疱瘡、類天疱瘡、カンジダ症、褥瘡性潰瘍	片瀬 永野	実習室 5B
11～14回	11	18	火	2～5	口腔癌と口腔軟組織の腫瘍 ・ 扁平上皮乳頭腫、血管腫、神経線維腫、脂肪腫、上皮性異形成、扁平上皮癌、扁平上皮癌リンパ節転移	片瀬 永野	実習室 5B
15～17回	11	25	火	3～5	顎骨・顎関節の病変 ・ 骨髄炎、線維性異形成症、骨腫、セメント質骨性異形成症、セメント質骨形成線維腫、巨細胞性肉芽腫、	片瀬 永野	実習室 5B
18～19回	12	2	火	4～5	非腫瘍性唾液腺疾患 ・ 急性耳下腺炎、慢性顎下腺炎、唾石症、粘液嚢胞	片瀬 永野	実習室 5B
20～22回	12	9	火	3～5	唾液腺腫瘍 ・ 多形腺腫、ワルチン腫瘍、基底細胞腺腫、オンコサイト腫瘍	片瀬 永野	実習室 5B
23～25回	12	16	火	3～5	唾液腺腫瘍 ・ 腺房細胞癌、粘表皮癌、腺様嚢胞癌、多形腺腫由来癌	片瀬 永野	実習室 5B
26～28回	12	23	火	3～5	口腔領域の嚢胞 ・ 含菌性嚢胞、歯源性角化嚢胞、石灰化歯源性嚢胞、鼻口蓋管嚢胞	片瀬 永野	実習室 5B
29～31回	1	6	火	3～5	口腔領域の嚢胞 ・ 術後性上顎嚢胞、類皮嚢胞、甲状舌管嚢胞、鰓嚢胞(リンパ上皮性嚢胞)、	片瀬 永野	実習室 5B
32～34回	1	20	火	3～5	歯源性腫瘍 ・ エナメル上皮腫、腺腫様歯源性腫瘍、石灰化上皮性歯源性腫瘍、エナメル上皮線維腫	片瀬 永野	実習室 5B
35～37回	1	27	火	3～5	歯源性腫瘍 ・ 歯牙腫(複雑型・集合型)、セメント芽細胞腫、歯源性粘液腫、エナメル上皮線維肉腫	片瀬 永野	実習室 5B

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 木・2～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024209		
科目ナンバリング・コード	DNGD22211981		
授業科目名/(英語名)	口腔微生物学実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5A 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、哲翁ふみ		
授業の概要			
1.微生物の種類と特性を理解する。 2.寄生・感染と生体の防御機構を理解する。 3.防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 歯科口腔疾患のなか大きな位置を占める感染症の原因となる微生物について、その特徴を理解し、それらの取扱いを習得する。さらに感染予防の基本手技を身につける。			
個別行動目標 SBOs: 1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明する。 C-4-1) 2. 代表的な病原菌、および口腔内細菌、真菌を分離培養、染色、観察する。 C-4-1) 3. 清潔と不潔の区別及び滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。さらに病原菌の取り扱い、培養ができる。これらの基本的な手技を実施する。 C-4-1) 5. 化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明する。また自己の菌を分離培養、薬剤耐性を検査する。 C-4-1)			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 教員の指導のもとで、実際に微生物(病原微生物を含む)を培養、各種の検査を実施する。また顕微鏡を用いた形態観察などの実習を行う。また各自の理解度を確認する為にレポートを課す。			
授業内容 1 回目 細菌の染色法(1): <i>Staphylococcus aureus</i> (グラム陽性菌)と <i>Escherichia coli</i> (グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。 2 回目 細菌の染色法(2): 枯草菌で芽胞染色、BCG 菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌を陰性染色にて観察する。 菌数測定法: 唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。 手洗い実習: 医療従事者として必修の手洗い方法を習得させる。蛍光クリームを用いて、各自手洗い後の洗い残しを観察、各自の問題点を認識させる。そのうえで正しい手洗い方法を習得させる。 3 回目 鼻腔からのブドウ球菌分離: 鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。 オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。 4 回目 口腔レンサ球菌: 口腔からの歯垢等のサンプルをから口腔レンサ球菌を分離、生化学的性状から菌種を同定する。 5 回目 歯周病原菌の培養: 口腔内の歯周病原菌として特に重要な <i>P. gingivalis</i> , <i>A. actinomycetemcomitans</i> , <i>F. nucleatum</i> を用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。 6 回目 真菌の培養: 口腔内の真菌としてとくに重要な <i>C. albicans</i> について口腔から分離、厚膜胞子を観察する。 7 回目 実習テスト (染色、観察実技)			
キーワード	感染・微生物・免疫		
教科書・教材・参考書	実習書を配布する。		
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、実習実技テスト等の評価を総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	白衣を各自で準備すること。すべての課題レポートを期限内に提出すること。		
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に実習書を用いて予習をすること。またあらかじめレポート課題の資料収集をおこなっておくこと。また知識の定着の為に返却されたレポートを用いて内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患のなかでう蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修していただきたい。		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	木	2～6	細菌の染色法(1): Staphylococcus aureus (グラム陽性菌)とEscherichia coli (グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。	内藤・哲翁	実習室5A
2回	10	9	木	2～6	細菌の染色法(2): 枯草菌で芽胞染色、BCG菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌陰性染色にて観察する。菌数測定法: 唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。	内藤・哲翁	実習室5A
3回	10	16	木	2～6	鼻腔からのブドウ球菌分離: 鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。	内藤・哲翁	実習室5A
4回	10	30	木	2～6	口腔レンサ球菌分離同定: 口腔からの歯垢等のサンプルをMitis-Salivarius培地に塗抹し、口腔レンサ球菌を分離し、生化学的性状から菌種を同定する。	内藤・哲翁	実習室5A
5回	11	6	木	2～6	歯周病原菌の培養: 口腔内の歯周病原菌として特に重要なP. gingivalis, A.actinomyces comitans, F. nucleatumを用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。	内藤・哲翁	実習室5A
6回	11	13	木	2～6	真菌の培養: 口腔内の真菌としてとくに重要なC. albicansについて口腔からのサンプルをカンジダGE培地に塗抹し、分離する。コーンミール培地を用いて培養し、厚膜胞子を観察する。	内藤・哲翁	実習室5A
7回	11	20	木	2～6	実習テスト(染色、観察実技試験を含む) 10:30開始	内藤・哲翁	講義室3A

年度 2025 学期 3・4Q	曜日・校時 金・1～2	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25024210		
科目ナンバリング・コード	DNGD22221982		
授業科目名/(英語名)	歯科薬理学/ (Dental Pharmacology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A(一部3B)	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp/A 棟5階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	筑波 隆幸、坂井 詠子、兼松 隆(非常勤講師・九州大学・教授)、山口 優		
授業の概要 薬理学の講義と連続性を持つが、痛みを止める薬物、抗感染症薬、止血薬、各種消毒薬、歯科専用薬物などを臨床との関連性を持たせながら講義する。登院前教育の一環として重視し、歯科臨床において使用頻度の高い薬物について、薬理作用と作用機序を論理的に理解することをねらいとする。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 薬物の生体に対する作用(薬力学)と薬物を分解、排泄する現象(薬物動態学)を理解し、病気の治療に役立てる知識を得ることを目標とする C-6-2)-①～⑤, C-6-4)-② 個別行動目標 SBOs: C-6-2)-①～⑤, E-1-4)-(4)-② 1.化学療法の目的、原理および作用機序を理解し説明できる。 C-6-2)-①～⑤, E-1-5)-⑥, ⑧ 2.血液の凝固機序および止血薬について理解し説明できる。 C-6-2)-①～⑤, C-6-3)-① 3.滅菌と消毒の意義、原理および代表的な薬物を理解し説明できる。 C-6-2)-①～⑤, C-6-3)-① 4.歯科治療時に留意すべき服用薬物を説明できる。 5.歯内療法、歯周治療および、う蝕予防に用いる薬物を説明できる。			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し、プリントを配布して、新しく確実になった情報の追加を行う。			
授業内容 1 回目 化学療法薬(1):総論、作用機序、副作用と副現象 2 回目 化学療法薬(2):抗感染症薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬 3 回目 化学療法薬(3):抗悪性腫瘍薬 4 回目 炎症総論、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤 5 回目 免疫機能に影響する薬物、免疫抑制薬 6 回目 血液凝固:血液凝固機構概論、血栓症とその治療法 7 回目 止血薬と抗凝固薬:止血法および全身性止血薬と局所性止血薬 8 回目 特別講義 兼松 隆 先生(九州大学・教授) 9 回目 硬組織の薬理:歯と骨の病態薬理学, Ca ホメオスタシス, Ca 摂取と骨吸収, 骨粗鬆症の予防と治療 10 回目 消毒薬:フェノール類, アルコール類, アルデヒド類, ハロゲン, 及びハロゲン含有化合物, 酸化剤 11 回目 腐食薬、収斂薬、重金属化合物、金属拮抗薬、界面活性剤、植物性揮発油類 12 回目 口腔粘膜および唾液腺に作用する薬物 13 回目 歯内療法の薬物 14 回目 歯周疾患の薬物、抗う蝕薬、口腔用特殊薬物 15 回目 まとめ			
キーワード	薬物, 薬理作用, 作用機序		
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第7版):医歯薬出版 参考書:1.講義に際して示すが、なるべく出版年度の新しい各種参考書を利用の事。 2.図書館にも関連参考書を所蔵している。 3.薬理学講座にも所蔵しているので、利用を申し出てください。		
成績評価の方法・基準等	3年後期末の定期試験で、筆記試験を行い、60点以上得点すれば合格である。本科目は、3年後期中に合格する事が必要である。再試験は1回行う。本試験の満点は100点、再試験以降の満点は60点とする。		
受講要件(履修条件)	講義は2/3以上の出席が必要。		
備考(学生へのメッセージ)	液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し、プリントを配布して、新しく確実になった情報の追加を行う。授業はシラバスに沿って行うが、毎年若干の変更を余儀なくされる。講義の邪魔になると判断したときには、厳格に対応します。気持ちの良い講義になるように、協力をお願いします。		
実務経験のある教員による授業科目	山口 優/歯科医院における診療経験／一般歯科において実際に薬剤がどのように使用されているかの実践的な情報提供を行う。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	金	1～2 (I)	化学療法薬(1) 総論、作用機序、副作用と副現象、各種抗生物質について	筑波	講義室3B
2回	10	10	金	1～2 (I)	化学療法薬(2) 抗感染症薬、ニューキノロン薬、抗結核薬、抗真菌薬、 抗ウイルス薬について	筑波	講義室6B
3回	10	17	金	1～2 (I)	化学療法薬(3) 抗悪性腫瘍薬について	筑波	講義室3A
4回	10	24	金	1～2 (I)	抗炎症薬 ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬	筑波	講義室6B
5回	10	31	金	1～2 (I)	免疫機能に関する薬物 免疫抑制薬、免疫機能活性化薬	筑波	講義室3B
6回	11	7	金	1～2 (I)	血液凝固 血液凝固機構概論、血栓症とその治療法 (血液が血管内で凝固しないのはなぜか。血管外ではなぜ凝固するのか。)	坂井	講義室3A
7回	11	14	金	1～2 (I)	止血薬と抗凝血薬 止血法および全身性止血薬と局所性止血薬 (抜歯後の止血をどう考えるのか。薬物はどのように止血に関与するか。)	坂井	講義室3A
8回	11	21	金	1～2 (I)	特別講義 細胞内情報伝達と薬理作用	兼松	講義室6B
9回	11	28	金	1～2 (I)	硬組織の薬理 歯と骨の病態薬理学, Caホメオスタシス, Ca摂取と骨吸収, 骨粗鬆症の予防と治療	坂井	講義室6B
10回	12	5	金	1～2 (I)	消毒薬 消毒薬総論, 消毒効果を左右する因子, 消毒力の評価	坂井	講義室3A
11回	12	12	金	1～2 (I)	腐食薬、収斂薬 消毒薬各論:フェノール類、アルコール類、アルデヒド類、ハロゲン類 酸化剤、重金属化合物, 界面活性剤, 植物性揮発油類	坂井	講義室3A
12回	12	19	金	1～2 (I)	口腔粘膜治療薬、唾液腺作用薬 口腔粘膜疾患に用いられる薬物および唾液腺に作用する薬物	筑波	講義室3A
13回	1	9	金	1～2 (I)	歯科専用薬物(1) 歯内療法に使用する薬物について	山口	講義室3A
14回	1	16	金	1～2 (I)	歯科専用薬物(2) 歯周疾患に用いる薬物, う蝕の予防に用いる薬物, 口腔用特殊薬物	山口	講義室3A
15回	1	30	金	1～2 (I)	歯科薬理学まとめ 総復習と問題演習	筑波	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 火・1	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25024211		
科目ナンバリング・コード	DNGD22231098		
授業科目名/(英語名)	医学統計学/ (Statistics in Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 佐藤 俊太郎/shuntarosato@nagasaki-u.ac.jp/病院臨床研究センター/095-819-7194/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤俊太郎(長崎大学病院)		
授業の概要			
医学論文の多くは研究対象標本から得られた事実(データ)に基づいて報告される。履修によってデータの成り立ち・見かたができるようになる。それによって、科学論文への理解が深まる。医学的問題を対象とした統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得を意図する。			
授業到達目標			
一般目標 GIO:		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得をする。			
個別行動目標 SBOs:			
1.データの種類とその要約について説明できる。推定と検定を説明できる。		B-4-2)	
2. 連続、カテゴリカルデータの群比較を説明できる。相関と回帰分析を説明できる。		B-4-2)	
3.母集団と標本との関係が説明できる。疫学研究の手法について説明できる。		B-4-1), B-4-3)	
対応するディプロマポリシー			
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。			
授業方法(学習指導法)			
スライドを用いた授業形式。理解度の確認のため学生への質問、ならびにレポート課題を課す。			
授業内容			
1 回目 イントロダクション, 研究を分類する, データセットを作る			
2 回目 記述統計			
3 回目 母集団と標本集団, 仮説検定			
4 回目 2 群の比較(連続データ)			
5 回目 2 群の比較(カテゴリカルデータ)			
6 回目 回帰分析			
7 回目 回帰分析, 演習			
8 回目 演習			
キーワード	統計的推定・検定、母集団と標本、疫学研究		
教科書・教材・参考書	必要に応じて、講義中に指定する。		
成績評価の方法・基準等	毎回の課題とレポートによって総合評価する。		
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。		
備考(学生へのメッセージ)	回数が少ないので出席には要注意		
実務経験のある教員による授業科目	・佐藤俊太郎／長崎大病院臨床研究センターにて統計に関する指導・助言を行っている。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	火	1	イントロダクション, 記述統計	佐藤	講義室3A
2回	10	7	火	1	母集団と標本, 推定, 95%信頼区間	佐藤	薬学部 講義室1B
3回	10	14	火	1	診断法の性能評価(感度・特異度等)	佐藤	薬学部 講義室1B
4回	10	21	火	1	検定の考え方	佐藤	講義室3A
5回	10	28	火	1	t検定	佐藤	講義室3A
6回	11	11	火	1	Wilcoxon順位和検定	佐藤	講義室3A
7回	11	18	火	1	比・割合・率;カイ二乗検定, Fisherの正確確率検定	佐藤	講義室3A
8回	11	25	火	1	回帰	佐藤	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 月・5	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25024213		
科目ナンバリング・コード	DNGD22241934		
授業科目名/(英語名)	歯科法医学/ Dental forensic medicine		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	口腔生命科学各論 I
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山下 裕美/ hiyamashita@nagasaki-u.ac.jp/歯科法医学分野/095-819-7076(内 7076)/12:00～13:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	山下 裕美、池松 和哉(医学部法医学)、安倍優樹(医学部法医学)、櫻田 宏一(東京科学大学法歯学)、 田中 靖彦(タナカ・デンタル・クリニック)		
授業の概要			
法医学及び歯科法医学の基礎知識とその応用例を学び、将来、歯科医師としての社会貢献への関心を深め、また、死亡診断書の記載方法や身元不明者に対する歯科所見を用いた個人識別の方法を学んでいく。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 法医学及び歯科法医学の基礎知識及びそれらに関連する法律を理解し、主に災害時に必要とされる歯科所見を用いた個人識別の方法を身に付ける。			
個別行動目標 SBOs: 1. 法医学・歯科法医学に関連する制度や法律を説明する。(知識;解釈) 2. 死因論、死体現象、検案・解剖を説明する。(知識;解釈) 3. 虐待(小児、高齢者)について理解し、歯科医師としての責務を説明する。(知識;想起) 4. 災害時に必要な歯科医師の役割を説明する。(知識;想起) 5. 死亡診断書の記載や症例を用いて身元不明者に対する歯科所見を用いた個人識別を実施する。(技能)			
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 B-2-2), B-2-3) C-5-7) B-2-2), E-4-2), E-5-1) B-2-2) B-2-3)			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
プリントとスライドを用いた講義、症例についてはスライドを使用し視覚的に理解を深める。講義内容によっては、学習課題を与え、その都度個人でその課題に取り組んでもらう。死亡診断書や歯科所見を用いた個人識別では、実際に使用している書式を用いて作成方法を習得する。			
授業内容			
1 回目 総論、各論(1) 検案・解剖 2 回目 各論(2) 死体現象 3 回目 各論(3) 異常環境下の障害 4 回目 各論(4) 法医学における物体検査 5 回目 各論(5) 児童虐待、損傷 6 回目 地域における嘱託歯科医の社会活動について 7 回目 シミュレーション実習(歯科所見を用いた個人識別) 8 回目 シミュレーション実習(死亡診断書)			
キーワード	法医学、歯科法医学、死体現象、死因究明制度、個人識別、虐待		
教科書・教材・参考書	教科書: 特に指定しない 参考書: 学生のための法医学(南山堂)、法歯科医学(永末書店)、歯科検視マニュアル(生協でのみ販売)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験、レポート、出席状況等を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合、成績評価の対象とならない。		
備考 (学生へのメッセージ)	歯科医師として必要な法医学及び歯科法医学の知識を習得し、その社会的役割について理解を深めて下さい。		

実務経験のある教員による授業科目	・山下 裕美／剖検、検案及び生体鑑定における実務経験／法医学分野で行われている剖検・検案時の歯科所見採取や歯科治療痕を用いた個人識別、生体鑑定等の実務経験を活かして歯科法医学に必要な知識について解説する。 ・池松 和哉／剖検、検案及び生体鑑定における実務経験／剖検・検案、生体鑑定等の実務経験から歯科医師に必要な法医学的知識について解説する。 ・安倍 優樹／剖検、検案及び生体鑑定における実務経験／剖検・検案、生体鑑定等の実務経験から歯科医師に必要な法医学的知識について解説する。 ・櫻田 宏一／物体検査の実務経験／法医学分野及び警察の捜査で必要とされる物体検査の実務経験を踏まえ、歯科法医学に必要な知識について解説する。 ・田中 靖彦／警察嘱託歯科医活動における実務経験／警察嘱託歯科医活動の実務経験を踏まえて、地域で求められる歯科医師の役割や社会貢献について解説する。
------------------	--

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	1	月	5	総論 各論(1)検案・解剖	山下裕美	講義室3A
2回	12	8	月	5	各論(2)死体現象	安倍優樹	講義室3A
3回	12	15	月	5	各論(3)異常環境下の障害	池松和哉	講義室3A
4回	12	22	月	5	各論(4)法医学における物体検査 最新の犯罪捜査における物体検査法について	櫻田宏一	講義室3A
5回	1	5	月	5	各論(5)児童虐待、損傷	山下裕美	講義室3A
6回	1	19	月	5	地域における嘱託歯科医の社会活動について	田中靖彦	講義室3A
7回	1	26	月	5	シミュレーション実習(歯科所見を用いた個人識別)	山下裕美	講義室3A
8回	1	26	月	6	シミュレーション実習(死亡診断書)	山下裕美	講義室3A

口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生、5年次生）

（1）衛生学及び同実習	（3年）・・・・・・・・・・	114
（2）予防歯科学及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	118
（3）歯科矯正学及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	123
（4）小児歯科学	（4年）・・・・・・・・・・	129
（5）小児歯科学実習	（4年）・・・・・・・・・・	131
（6）保存修復学	（4年）・・・・・・・・・・	133
（7）保存修復学実習	（4年）・・・・・・・・・・	136
（8）歯内治療学	（4年）・・・・・・・・・・	139
（9）歯内治療学実習	（4年）・・・・・・・・・・	142
（10）歯周病学	（4年）・・・・・・・・・・	145
（11）歯周病学実習	（4年）・・・・・・・・・・	148
（12）冠橋義歯学及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	151
（13）有床義歯補綴学及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	157
（14）口腔外科学Ⅰ及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	161
（15）口腔外科学Ⅱ及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	163
（16）歯科放射線学及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	166
（17）歯科麻酔学及び同実習	（4年）・・・・・・・・・・	169
（18）高齢者歯科学	（4年）・・・・・・・・・・	172
（19）障害者歯科学	（4年）・・・・・・・・・・	176
（20）災害口腔医学	（4年）・・・・・・・・・・	179
（21）口腔インプラント学	（5年）・・・・・・・・・・	182
（22）摂食嚥下リハビリテーション学	（5年）・・・・・・・・・・	185
（20）社会歯科学	（5年）・・・・・・・・・・	188

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 木・3～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034301		
科目ナンバリング・コード	DNGD33011990		
授業科目名/(英語名)	衛生学及び同実習/(Hygieiology & Public Health)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室	講義室 3A、実習室 5A
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 入江浩一郎/iriko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教員室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	入江浩一郎、川下由美子、今給黎 明、佐藤俊太郎(長崎大学病院)、佐藤美穂(熱帯医学) 高島美和(長崎大学病院)、辻村和也(長崎県環境部)		
授業の概要 環境衛生学、公衆衛生学、口腔衛生学、社会歯科学、予防医学など「疾患の予防」に基づく幅広い分野を学ぶ。 個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識を理解、習得させ且つ問題解決に必要な態度と能力を養う。 健康、疾患と社会の関連、予防医学の重要性を理解する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識、態度、および能力を養う。 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 個別行動目標 SBOs: 1. 疾病予防と健康増進の考え方を説明できる。 2. 衛生学の基本的知識、生活環境と健康、廃棄物とその処理、環境保全と環境対策を説明できる。 3. 人口問題と疾病統計、高齢者の現状を説明できる。 4. 医師・歯科医師の責務と医療倫理について説明できる。 5. 感染症の疫学と感染予防を説明できる。 6. 環境保健について説明できる			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 講義及び実習			
授業内容 1 回目: 衛生学、社会歯科学概論 (入江) 2 回目: 疫学① (佐藤俊) 3 回目: 疫学② (佐藤俊) 4 回目: 食中毒(入江) 5 回目: 感染症① (川下) 6 回目: 感染症② (川下) 7 回目: 社会と保健医療の仕組み (入江) 8 回目: 地域保健 (入江) 9 回目: 母子保健 (川下) 10 回目: 学校保健 (川下) 11 回目: 障害者福祉 (今給黎) 12 回目: 成人保健 (入江) 13 回目: 産業保健 (川下) 14 回目: 健康増進法と健康日本 21(入江) 15-16 回目: 政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計(入江) 17-18 回目: 自習 19-20 回目: 特別講義(辻村) 21 回目: 自習 22 回目: 精神保健医療福祉 (川下) 23 回目: 国際保健 (佐藤美) 24 回目: 高齢者保健 (今給黎) 25 回目: 栄養 (高島美和栄養士) 26 回目: 自習 27-29 回目: 衛生学実習 水質検査 (入江・川下・今給黎) 30 回目: 自習			

キーワード	衛生、健康、疾患、予防、栄養、疫学、感染、環境、社会
教科書・教材・参考書	新編 衛生学・公衆衛生学（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合がある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席することとする。欠席した学生は必ず連絡を取ること。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。
実務経験のある教員による授業科目	・入江 浩一郎／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・川下 由美子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・今給黎 明／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・佐藤 俊太郎／統計専門家としての経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・佐藤 美穂／海外での経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・高島 美和／栄養士としての経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	27	木	3	衛生学、社会歯科学概論	入江	講義室3A
2回	11	27	木	4	疫学①	佐藤(俊)	講義室3A
3回	11	27	木	5	疫学②	佐藤(俊)	講義室3A
4回	11	27	木	6	食中毒	入江	講義室3A
5回	12	4	木	3	感染症①	川下	講義室3A
6回	12	4	木	4	感染症②	川下	講義室3A
7回	12	4	木	5	社会と保健医療の仕組み	入江	講義室3A
8回	12	4	木	6	地域保健	入江	講義室3A
9回	12	11	木	3	母子保健	川下	講義室3A
10回	12	11	木	4	学校保健	川下	講義室3A
11回	12	11	木	5	障害者福祉	今給黎	講義室3A
12回	12	11	木	6	成人保健	入江	講義室3A
13回	12	18	木	3	産業保健	川下	講義室3A
14回	12	18	木	4	健康増進法と健康日本21	入江	講義室3A
15回	12	18	木	5	政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計 1	入江	講義室3A
16回	12	18	木	6	政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計 2	入江	講義室3A
17回	12	18	木	7	自習		講義室3A

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
18回	1	8	木	3	自習		講義室3A
19回	1	8	木	4	衛生学特別講義-環境保健 1	辻村	講義室3A
20回	1	8	木	5	衛生学特別講義-環境保健 2	辻村	講義室3A
21回	1	8	木	6	自習		講義室3A
22回	1	15	木	3	精神保健医療福祉	川下	講義室3A
23回	1	15	木	4	国際保健	佐藤(美)	講義室3A
24回	1	15	木	5	高齢者保健	今給黎	講義室3A
25回	1	15	木	6	栄養	学内栄養士 (高島)	講義室3A
26回	1	22	木	3	自習		講義室6B
27回	1	22	木	4	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	入江 川下 今給黎	実習室5A
28回	1	22	木	5	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	入江 川下 今給黎	実習室5A
29回	1	22	木	6	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	入江 川下 今給黎	実習室5A
30回	1	22	木	7	自習		講義室6B

関連臨床医学（3 年次生）

（1）内科学総論	・ ・ ・ ・ ・	191
（薬学部共修）		
（2）外科学総論	・ ・ ・ ・ ・	194
（薬学部共修）		
（3）内科学各論	内科学 1 ・ ・ ・ ・ ・	197
（薬学部共修）	内科学 3 ・ ・ ・ ・ ・	199
	血液学 ・ ・ ・ ・ ・	201
（4）外科学各論	外科学 1 ・ ・ ・ ・ ・	203
	外科学 2 ・ ・ ・ ・ ・	205
（5）隣接医学Ⅰ	皮膚科学 ・ ・ ・ ・ ・	207
（薬学部共修）	眼科学 ・ ・ ・ ・ ・	209
	耳鼻咽喉科学 ・ ・ ・ ・ ・	211
	整形外科科学 ・ ・ ・ ・ ・	213
	形成外科学 ・ ・ ・ ・ ・	215
（6）隣接医学Ⅱ	小児科学 ・ ・ ・ ・ ・	217
（薬学部共修）	産科婦人科学 ・ ・ ・ ・ ・	219
	泌尿器科学 ・ ・ ・ ・ ・	221
	精神神経科学 ・ ・ ・ ・ ・	223
	脳神経外科学 ・ ・ ・ ・ ・	225
（7）隣接医学Ⅲ	人類遺伝学 ・ ・ ・ ・ ・	227

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 木・	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25084501		
科目ナンバリング・コード	DNGD33171992		
授業科目名/(英語名)	内科学総論/ (Internal Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/ オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp / 歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	石本 裕士、高園 貴弘、深堀 範、道津 洋介、岩田 麻有、三馬 聡、小澤 栄介、松島 加代子、橋口 慶一、福島 真典、田中 健之、柿内 聡志		
授業の概要			
歯科医・薬剤師として必要な内科学総論(呼吸器、消化器、腎臓分野、感染症学)			
授業到達目標			
一般目標 GIO:		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
歯科医・薬剤師として最低限必要な内科疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓疾患)に関する知識を習得する。			
個別行動目標 SBOs:		【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識	
内科学および下記の各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。 1 呼吸器、 2 消化器、 3 腎・泌尿器			
対応するディプロマポリシー			
DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
プリント、スライドを使った講義が主体である。			
授業内容			
1 回目 上部消化管疾患			
2 回目 下部消化管疾患			
3 回目 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患			
4 回目 感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について			
5 回目 腎不全			
6 回目 感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について			
7 回目 肺癌			
8 回目 間質性肺疾患			
9 回目 腎臓内科総論、腎臓の解剖と機能			
10 回目 呼吸器感染症			
11 回目 腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質性腎炎			
12 回目 胆膵疾患			
13 回目 ウイルス性肝疾患			
14 回目 肝硬変と肝癌			
教科書・教材・参考書	(参考書として記載しますが、基本的には不要です) 教科書 わかりやすい内科学(第 5 版) 井村裕夫編集 (文光堂) 参考書 内科学書(改訂第 9 版):全 6 冊 + 別巻(中山書店)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて評価する。出題範囲は基本的に講義内容あるいは配布資料の範囲。 再試は1回行う。		
受講要件(履修条件)	なし		

備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・石本 裕士、高園 貴弘、深堀 範、道津 洋介 / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な内科疾患（呼吸器疾患）について教授する。 ・小澤 栄介、三馬 聡、松島 加代子、橋口 慶一、福島 真典 / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な内科疾患（消化器疾患）について教授する。 ・岩田 麻有 / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な内科疾患（腎臓疾患）について教授する。 ・田中 健之、柿内 聡志 / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な内科疾患（感染症学）について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	10	木	I	消化器病学 上部消化管疾患	松島 加代子	講義室3A
2回	4	17	木	I	消化器病学 下部消化管疾患	橋口 慶一	講義室3A
3回	4	24	木	I	呼吸器病学 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患	深堀 範	講義室3A
4回	5	1	木	I	感染症学 感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について	田中 健之	講義室3A
5回	5	8	木	I	腎臓病学 腎不全	岩田 麻有	講義室3A
6回	5	15	木	I	感染症学 感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について	柿内 聡志	講義室3A
7回	5	22	木	I	呼吸器病学 肺癌	道津 洋介	講義室3A
8回	5	29	木	I	呼吸器病学 間質性肺疾患	石本 裕士	講義室3A
9回	6	5	木	I	腎臓病学 腎臓内科総論、腎臓の解剖と機能	岩田 麻有	講義室3A
10回	6	12	木	I	呼吸器病学 呼吸器感染症	高園 貴弘	講義室3A
11回	6	19	木	I	腎臓病学 腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質性腎炎	岩田 麻有	講義室3A
12回	6	26	木	I	消化器病学 胆膵疾患	小澤 栄介	講義室3A
13回	7	3	木	I	消化器病学 ウイルス性肝疾患	三馬 聡	講義室3A
14回	7	10	木	I	消化器病学 肝硬変と肝臓	福島 真典	講義室3A
15回	7	17	木	I	まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 金・1		必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25084502			
科目ナンバリング・コード	DNGD33181992			
授業科目名/(英語名)	外科学総論/(Surgery)			
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A		
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/ オフィスアワー 歯学部教務委員長 /gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/ 歯学部学務係 /095-819-7613/9:00 ~ 17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	橋本泰匡、野中 隆、富永哲郎、松本桂太郎、下山孝一郎、荒井淳一、大坪竜太、小畑智裕、山根裕介			
授業の概要 外科学総論としての外科診断学、腫瘍学、創傷治癒、免疫学、感染学、栄養学の系統的講義を通じて、外科患者の診断、治療に対する理解を深める。				
授業到達目標 一般目標 GIO: 外科の歴史、損傷と創傷治療、炎症と感染、腫瘍、外科栄養、免疫、体液変動、老人外科、小児外科の各分野について、基本的知識を習得し、理解する。 個別行動目標 SBOs: 1. 外科学の概念を説明できる。 2. 外科治療の中心である手術などの侵襲に伴う病態への対応を説明できる。 3. 現代外科学の主な対象である外傷・腫瘍の外科および先端にある臓器移植、また、老人外科、小児外科に関する概要を説明できる。				
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法) PC プレゼンテーションによる講義が中心となる。また理解を深めるため、必要に応じてプリントの配布も行うこともある。				
授業内容 1 回目 外科と栄養:(1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血:血液製剤の種類と特徴 外科的侵襲と生体反応:(1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程 2 回目 老人外科・小児外科の特徴:(1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴 3 回目 腫瘍:(1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学 4 回目 炎症と感染:(1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療 5 回目 臓器移植・人工臓器:呼吸器系の移植と人工臓器 6 回目 外科と免疫:(1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染 7 回目 外科の歴史と外科医の立場:(1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見 8 回目 損傷と創傷治療:(1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際 9 回目 体液と変動の輸液:(1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法				
キーワード	外科、腫瘍学、免疫学、炎症、感染、栄養、創傷治癒			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布することあり。			
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。再試は1回行う。 出席率も考慮する。			
受講要件(履修条件)	なし			

備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において役に立つ外科的な基礎知識を習得することを目的とします。
実務経験のある教員による授業科目	・ 富永 哲郎（第 1 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 山根 裕介（第 2 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 野中 隆（第 3 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 下山 孝一郎（第 4 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 松本 桂太郎（第 5 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 小畑 智裕（第 6 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 橋本 泰匡（第 7 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 荒井 淳一（第 8 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・ 大坪 竜太（第 9 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	金	1	外科と栄養 (1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血 (1)血液製剤の種類と特徴	富永哲郎	講義室3A
2回	4	11	金	1	老人外科・小児外科の特徴 (1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴	山根裕介	講義室3A
3回	4	18	金	1	腫瘍 (1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学	野中隆	講義室3A
4回	4	25	金	1	炎症と感染 (1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療 外科的侵襲と生体反応 (1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程	下山孝一郎	講義室3A
5回	5	2	金	1	臓器移植・人工臓器 呼吸器系の移植と人工臓器	松本桂太郎	講義室3A
6回	5	9	金	1	外科と免疫 (1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染	小畑智裕	講義室3A
7回	5	16	金	1	外科の歴史と外科医の立場 問診と外科的診察法 (1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見	橋本泰匡	講義室3A
8回	5	23	金	1	損傷と創傷治療 (1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際	荒井淳一	講義室3A
9回	5	30	金	1	体液の変動と輸液 (1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法	大坪竜太	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 日程表のとおり		必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084511			
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992			
授業科目名/(英語名)	内科学各論(内科学 1)/(Internal medicine,Spesial Lecture)			
対象年次 3 年次	講義形態	講義形式	教室	講義室 3A
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部		科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/ 歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	岩本直樹、堀江一郎、森内昭江、古賀智裕 辻野 彰、宮崎禎一郎			
授業の概要 内科学の基礎知識を理解することを目標とする。特に、以下のテーマに基づいて、歯科口腔症状所見との関連にも重点をおいて講義する。内科学について、代表的な疾患の理解や歯科口腔症状所見との関連に重点をおいて講義する。				
授業到達目標 [平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム] 一般目標 GIO: 内科学の基礎知識を理解する。将来、実際の臨床の場で役立つような知識・判断力を身に付けさせる。 個別行動目標 SBOs: 受講生がリウマチ性疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患の概念を理解し、その病態を説明できるようにする。 [E-6] 医師と連携するために必要な医学的知識				
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法) 講義形式にて行う。プリントの配布、スライド及び液晶プロジェクターを使用して講義する。				
授業内容 1 回目 リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-1。 2 回目 内分泌疾患の基礎と臨床について、バセドウ病などの内分泌疾患の内科的知識を講義して、歯科領域の注意点などを理解させる。 3 回目 糖尿病の成因・治療について、糖尿病の内科的知識を講義して歯科領域の注意点などを理解させる。 4 回目 リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-2。 5 回目 臨床神経学概説1: 脳血管障害で使用される抗凝固剤、抗血小板剤の知識を深く理解させる。 6 回目 臨床神経学概説2: 歯科領域を中心に、脳神経の解剖・生理学をとうして、神経内科学の基礎知識を講義する。				
キーワード	リウマチ性疾患、臨床神経学、糖尿病、内分泌疾患			
教科書・教材・参考書	なし			
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験(講義担当者が各々試験問題を作成)を実施する。出席率、追試験、再試験は学部規則の沿って厳格に行う。			
受講要件(履修条件)	特になし			
備考(学生へのメッセージ)	将来、実際の臨床の場で役立つような内科学の基礎知識が身につくことを心がけて講義します。			
実務経験のある教員による授業科目	・古賀 智裕(第 1 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・堀江 一郎(第 2 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・森内 昭江(第 3 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・岩本 直樹(第 4 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・辻野 彰(第 5 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・宮崎 禎一郎(第 6 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-1	古賀智裕	講義室3A
2回	10	6	月	I	内分泌疾患 主な内分泌疾患の診断・治療について	堀江一郎	薬学部 講義室1C
3回	10	20	月	I	糖尿病 糖尿病の成因・治療について	森内 昭江	講義室3A
4回	10	27	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-2	岩本直樹	講義室3A
5回	10	31	金	V	神経疾患 臨床神経学概説1:脳血管障害について	辻野 彰	講義室3A
6回	11	7	金	V	神経疾患 臨床神経学概説2:歯科領域の神経解剖	宮崎禎一郎	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 月 I、月 V		必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084512			
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992			
授業科目名/(英語名)	内科学各論(内科学 3)/(Internal medicine, Cardiovascular disease)			
対象年次 3 年次	講義形態	講義形式	教室	講義室 3A
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部		科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤大輔、本川哲史、荒川修司、河野浩章、池田聡司			
授業の概要				
歯学部学生にあつては、循環器疾患を理解し、循環器疾患を有する患者に歯科治療を行うとどのような影響があるのか、歯科診療に際して注意すべき点など、実際の歯科診療に必要な知識を学習して欲しい。薬学部にあつては、循環器疾患を理解し、治療薬として使われる薬剤の作用機序を理解し薬剤に対する理解を深めて欲しい。				
授業到達目標 一般目標 GIO: 循環器内科学の医療従事者としての一般的な知識を習得することが第一の目標となる。循環器疾患を有する患者への歯科治療や投薬治療を行う際に、歯科医師・薬剤師として知っておくべき知識、注意が必要な点、治療薬物の薬効について習得する。 個別行動目標 SBOs: 循環器、内科学、内科医療および加齢・老年病学の病態生理・疾患を理解し概説できる。			【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識	
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法) 基本的には板書およびパソコンにて講義するが、語り尽くせない分はプリントを活用する。				
授業内容 1 回目 弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎 2 回目 虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞 3 回目 心電図・不整脈:期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD 4 回目 心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心不全 5 回目 高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症				
キーワード				
教科書・教材・参考書	参考書 病気がみえる vol.2 循環器 医療情報科学研究所 (編集)			
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて行う。内容は講義した内容で客観問題(五肢択一または複択形式)。60 点以上を合格とする。再試験は 1 回行う。			
受講要件(履修条件)				
備考(学生へのメッセージ)				
実務経験のある教員による授業科目	・ 佐藤 大輔 (第 1 回目) / 長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・ 本川 哲史 (第 2 回目) / 長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・ 荒川 修司 (第 3 回目) / 長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・ 河野 浩章 (第 4 回目) / 長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・ 池田 聡司 (第 5 回目) / 長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	17	月	I	弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、 大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、 心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎	佐藤大輔	講義室3A
2回	12	1	月	V	虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞	本川哲史	薬学部 講義室1C (C棟1階)
3回	12	8	月	I	心電図・不整脈:期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、 人工ペースメーカー、ICD	荒川修司	薬学部 講義室1C (C棟1階)
4回	12	15	月	I	心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、 拡張型心筋症、心不全	河野浩章	講義室3A
5回	12	22	月	V	高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、 大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症	池田聡司	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 月・	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084513		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(血液学)/(Internal medicine, Hematology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	安東 恒史		
授業の概要 1.血液の構成成分およびその機能、さらに骨髄における造血について理解する。 2.止血機構について理解する。 3.血液疾患の中心である、貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患について病態や治療を理解する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 1.歯科医(薬剤師)にとって診療上必要と考えられる血液学について理解する。 2.血液の構成成分とその機能について説明できる。止血機構について説明できる。 3.代表的血液疾患の病態について理解する。 個別行動目標 SBOs: 血液内科学分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。			
対応するディプロマポリシー DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 講義形式にて行う。プリントを配布し、スライドを用いて講義する。			
授業内容 1 回目 造血のしくみ(造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能) 血球の種類と機能、貧血性疾患 2 回目 造血器悪性腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) 3 回目 止血の仕組み、出血性疾患			
キーワード	造血幹細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫、止血・凝固異常、化学療法、造血幹細胞移植		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1.講義録 血液・造血器疾患学(小澤敬也ほか、メジカルビュー社) 2.カラーテキスト血液病学(木崎 昌弘ほか、中外医学社) 3.血液学(三輪史朗ほか、文光堂) 講義資料を LACS に掲載する。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による定期試験で評価する。 再試験は、提出されたレポートの評価による(1 回行う)。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	正常血球の種類とその機能について確認しておく、症状や病態に関する理解が深まる。		
実務経験のある教員による授業科目	・安東 恒史 / 長崎大学病院における診療業務 / 診療上必要な血液学及び血液疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点の理解を促す。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	22	月	I	造血のしくみ(造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能) 血球の機能、貧血性疾患	安東 恒史	講義室3A
2回	1	5	月	I	造血器悪性腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) 病態・臨床的特徴・治療	安東 恒史	講義室3A
3回	1	19	月	I	止血の仕組み 出血性疾患の病態、疾患	安東 恒史	講義室3A
4回	1	26	月	I	内科学各論 まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 月・4		必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084521			
科目ナンバリング・コード	DNGD33201992			
授業科目名/(英語名)	外科学各論(外科学 1)/(Surgery detailed explanations, Surgical Oncology)			
対象年次 3 年次	講義形態	講義形式	教室	講義室 3A
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	北村哲生、久富一輝、溝口聡、宮崎拓郎、山根裕介、大坪竜太			
授業の概要				
外科各論としての心臓外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科について、その基本的な事項を学ぶ。				
授業到達目標			【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
一般目標 GIO: 外科学の各分野の基本事項について理解すること				
個別行動目標 SBOs:				
1. 一般・消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外で扱う主な疾患に対する知識を説明できる。				
2. 各疾患に対する診断方法、および外科的なアプローチの概要を説明できる。			【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識	
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法)				
PC プレゼンテーションによる講義が中心となる。また理解を深めるため、必要に応じてプリントの配布も行うこともある。				
授業内容				
1 回目 心臓外科: 先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療				
2 回目 血管外科: 急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療				
3 回目 呼吸器外科(1): 縦隔・胸壁の外科				
4 回目 呼吸器外科(2): 肺・胸膜の外科				
5 回目 小児外科: 先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療				
6 回目 呼吸器外科(3): 肺移植外科				
7 回目 乳腺外科: 乳癌の診断と治療				
キーワード	食道外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布することあり。			
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。 再試験は1回行う。 出席率も考慮する。			
受講要件(履修条件)	特になし			
備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において知っておくべき外科的な疾患とその治療内容を習得することを目的とします。			
実務経験のある教員による授業科目	・北村哲生、久富一輝(第 1・2 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・溝口聡(第 3・4 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・山根 裕介(第 5 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・宮崎拓郎(第 6 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・大坪 竜太(第 7 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	月	4	心臓外科 先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療	北村哲生	講義室3A
2回	10	6	月	4	血管外科 急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療	久富一輝	講義室6A
3回	10	20	月	4	呼吸器外科 縦隔・胸壁の外科	下山孝一郎	講義室3A
4回	10	27	月	4	呼吸器外科 肺・胸膜の外科	下山孝一郎	講義室3A
5回	11	4	火	4	小児外科 先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療	山根裕介	講義室3A
6回	11	10	月	4	呼吸器外科 肺移植外科	宮崎拓郎	講義室3A
7回	11	17	月	4	乳腺外科 乳癌の診断と治療	大坪竜太	講義室3A

年度 2025 学期 4Q		曜日・校時 月・4		必修選択 必修		単位数 (1)	
科目番号		25084522					
科目ナンバリング・コード		DNGD33201992					
授業科目名/(英語名)		外科学各論(外科学 2)/(Surgery detailed explanations, Gastrointestinal Surgery)					
対象年次 3 年次		講義形態 講義形式		教室 講義室 3A			
対象学生(クラス等)		歯学部		科目分類 関連臨床医学			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00							
担当教員(オムニバス科目等)		今村一歩、木下綾華、小林慎一郎、村上俊介、山口峻、濱田隆志、久芳さやか					
授業の概要 外科治療の対象となる代表的な消化器疾患について講義する。							
授業到達目標 一般目標 GIO: 外科治療の対象となる代表的な消化器疾患を学習し、臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる一般的知識を習得する。臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる代表的な消化器系外科的疾患について、基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深める。消化器悪性腫瘍、特に食道、胃、大腸などの管腔臓器、ならびに肝臓、胆道、膵臓、甲状腺などの実質臓器に発生する腫瘍の病態を理解し、その診断・治療過程を学ぶ。 個別行動目標 SBOs: 1) 消化器系悪性腫瘍、特に胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌の診断と治療について理解し、説明できる。 2) 臨床的に頻度の高い疾患である胆石症、消化性潰瘍、良性食道疾患の診断と治療について理解し、説明できる。							
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識							
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。							
授業方法(学習指導法) 各疾患についてプリント資料、スライド、および術式についてはビデオも用いながら総括的な講義を行う。							
授業内容 1 回目 胆嚢・胆道疾患 2 回目 膵疾患 3 回目 食道疾患 4 回目 胃疾患 5 回目 大腸・小腸疾患 6 回目 肝疾患 7 回目 甲状腺疾患							
キーワード		胆石症、胆道癌、膵炎、膵癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、肝移植、甲状腺					
教科書・教材・参考書		教科書 なし 参考書 標準外科学(12 版、医学書院) 監修: 北島政樹					
成績評価の方法・基準等		講義終了後に筆記試験を行い評価する。60 点以上を合格とする。 再試験は1回行う。					
受講要件(履修条件)		特になし					
備考(学生へのメッセージ)		特になし					
実務経験のある教員による授業科目		・木下 綾華(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・今村 一歩(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・小林 慎一郎(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・村上 俊介(第 4 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・山口 峻(第 5 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・濱田 隆志(第 6 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・久芳 さやか(第 7 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。					

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	1	月	4	胆嚢・胆道疾患： 胆石と胆道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	木下綾華	講義室3A
2回	12	8	月	4	脾疾患： 脾炎と脾癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	今村一步	講義室3A
3回	12	15	月	4	食道疾患： 食道疾患、特に食道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林慎一郎	講義室3A
4回	12	22	月	4	胃疾患： 胃疾患、特に胃癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	村上俊介	講義室3A
5回	1	5	月	4	大腸・小腸疾患： 大腸癌および小腸疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	山口 峻	講義室3A
6回	1	19	月	4	肝疾患： 肝癌や肝移植の適応となる疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	濱田隆志	講義室3A
7回	1	26	月	4	甲状腺疾患： 外科治療の対象となる甲状腺疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	久芳さやか	講義室3A
8回	2	2	月	4	外科学各論 まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 水・	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084531		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (皮膚科学)/(Relational medicine , Dermatology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	竹中 基、鋤塚 大、小池雄太		
授業の概要 歯科医師として必要な皮膚科疾患の知識の習得。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 皮膚疾患の本質を理解し、歯科医にとって重要な皮膚粘膜疾患についての知識を深めるために正常皮膚の機能を学習する。さらに発疹記載学、日常遭遇することの多い歯科領域に関連の深い皮膚粘膜疾患を中心に、病因、病態生理、臨床所見、治療法を理解する。 [平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム] 個別行動目標 SBOs: 1) 正常皮膚の構造と機能を理解する。 [E-6] 医師と連携するために必要な医学的知識 2) 皮膚粘膜疾患の皮疹、粘膜疹の記載方法を習得する。 3) 歯科領域と関連の深い皮膚粘膜疾患について理解する。			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) スライドによる講義。			
授業内容 1 回目 歯科金属アレルギーと皮膚疾患 2 回目 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー 3 回目 膠原病、腫瘍、水疱症と口腔症状			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験 有		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	・小池 雄太(第 1 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。 ・竹中 基(第 2 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。 ・鋤塚 大(第 3 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	水	I	皮膚腫瘍 膠原病、腫瘍、水疱症と口腔症状	鉾塚 大	講義室3A
2回	10	8	水	I	アレルギー 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー	竹中 基	医学部 第3講義室
3回	10	15	水	I	皮膚病と口腔粘膜 歯科金属アレルギーと皮膚疾患	小池雄太	医学部 第3講義室

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 木・	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084532		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (眼科学)/(Relational medicine , Ophthalmology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	井上大輔		
授業の概要			
視覚に関係する器官の解剖と生理を解説し、眼科領域の代表的な疾患を紹介する。			
授業到達目標			
一般目標 GIO:		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
代表的な眼疾患について理解する。眼科救急疾患を理解する。			
個別行動目標 SBOs:		【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識	
眼科学の概要を身につける。			
医療従事者として知っておくべき眼科疾患を習得する。			
対応するディプロマポリシー			
DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
スライドによる講義。			
授業内容			
1 回目 眼球及び視覚伝達路の構造とその機能、前眼部疾患について修得する。			
2 回目 眼の発生、網膜疾患について修得する。			
3 回目 緑内障及びその他の代表的な眼疾患について修得する。			
キーワード	眼、視覚、視路		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 病気がみえる vol.12 眼科 医療情報科学研究所 2. 標準眼科学 第 14 版 医学書院 3. 現代の眼科学 第 13 版 金原出版		
成績評価の方法・基準等	レポート評価の 6 割以上をもって合格とする。出席率、追試験、再試験は学部規則に沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	ぜひ興味をもって受講して頂きたいと思います。		
実務経験のある教員による授業科目	井上大輔 / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科医師に最低限必要な眼科疾患について教授する。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	11	木	I	眼球及び視覚伝達路の構造とその機能、前眼部疾患について修得する。	井上大輔	講義室3A
2回	12	18	木	I	眼の発生、網膜疾患について修得する。	井上大輔	講義室3A
3回	1	8	木	I	緑内障及びその他の代表的な眼疾患について修得する。	井上大輔	講義室3A
4回	1	15	木	I	隣接医学 I まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084533		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (耳鼻咽喉科学)/(Relational medicine I, Otorhinolaryngology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小路永聡美、高島寿美恵、西秀昭		
授業の概要			
耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖および生理、疾患に対する理解を深め、将来の歯科医師・薬剤師になどの医療従事者として着任した際に役に立つ基礎としての医学知識を構築することを目標とする。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖および生理、疾患に対する理解を深め、将来の歯科医師・薬剤師になどの医療従事者として着任した際に役に立つ基礎としての医学知識を構築することを目標とする。			
個別行動目標 SBOs: 1. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖についてひととおり説明することができる。 2. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の生理についてひととおり説明することができる。 3. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の疾患について学習し、適切な場で耳鼻咽喉科医に対し適切な症例に関するコンサルテーションを行うことができる。 4. 耳鼻咽喉科の領域について広範囲であるということを認識することができる。 5. 耳鼻咽喉科の内科的側面および外科的側面について講義を通じて掴む事ができる。 6. 耳鼻咽喉科と歯科との連携について、講義を通じて考えることができる。 7. 耳鼻咽喉科と薬剤師との連携について、講義を通じて考えることができる。			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 資料はプリントの配布。講義はスライド、ビデオなどを供覧し行う。			
授業内容 1 回目 鼻副鼻腔の構造と疾患 2 回目 耳の構造と聞こえの仕組み 3 回目 頭頸部腫瘍の診断と治療			
キーワード			
教科書・教材・参考書		教科書 なし 参考書 STEP 耳鼻咽喉科学(海馬書房)・新耳鼻咽喉科学(南山堂)	
成績評価の方法・基準等		授業に対する積極的な取組状況30点、レポート70点	
受講要件(履修条件)		学務に一任する。	
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目		・高島 寿美恵 (第1回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。 ・小路永 聡美(第2回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。 ・西 秀昭(第3回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。	

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	22	水	I	鼻、副鼻腔の構造と疾患	高島寿美恵	講義室3A
2回	10	29	水	I	耳の構造と聞こえの仕組み	小路永聡美	講義室3A
3回	11	5	水	I	頭頸部腫瘍の診断と治療	西 秀昭	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 水 I、月 I		必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084534			
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992			
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (整形外科科学)/(Relational medicine I, Orthopedics)			
対象年次 3 年次	講義形態	講義形式	教室	講義室 3A
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部		科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	松林 昌平、白石 和輝			
授業の概要				
主要整形外科疾患の病態の把握。骨・関節の疾患の病態の把握。				
授業到達目標				
一般目標 GIO: 運動器疾患の正確な診断と理解を深める。				
個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識				
1) 整形外科が扱う疾患を理解する。 2) それぞれの疾患の治療法を理解する。 3) 未来の人口動態より自分たちの置かれている状況を予想する。				
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法)				
スライドを使用して行う。				
授業内容				
1 回目 下肢の主要な外傷と疾患の解説 (白石) 2 回目 運動器疾患の総論 (松林) 3 回目 上肢の主要な外傷と疾患の解説 (松林) * 担当教員は変更の可能性あり				
キーワード				
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 標準整形外科学:医学書院			
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験は1回行う。			
受講要件(履修条件)				
備考(学生へのメッセージ)	LACS に掲載されている資料を勉強して下さい。			
実務経験のある教員による授業科目	・白石 和輝(第1 回目)／長崎大学病院における診療業務／整形外科疾患(下肢)の病態や診断について教授する。 ・松林 昌平(第 2・3 回目)／長崎大学病院における診療業務／整形外科疾患(総論)の病態や診断について教授する。			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	10	月	I	下肢の障害 下肢の主要な外傷と疾患の解説	白石	講義室3A
2回	11	12	水	I	整形外科総論 運動器疾患の総論	松林	講義室3A
3回	11	19	水	I	上肢の障害 上肢の主要な外傷と疾患の解説	松林	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 水・	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084535		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (形成外科学) / (Relational medicine , Plastic and Reconstructive Surgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	榎山 和也、岩尾 敦彦		
授業の概要			
身体外表の異常を機能的・形態的に再建し、患者の社会復帰を促すという形成外科治療についての理解を深めさせる。第1回目では創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料について講義する。第2回目では形成外科概論、形態と機能との関わり組織移植の基礎と応用について講義を行う。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 形態異常のハンディキャップとしての特殊性をよく理解し、どのようなものが形態異常の原因となりうるのかを理解する。また、創傷治癒と再生医療の基礎と形成外科における臨床への応用、また、組織移植術に対する基礎的知識の理解とその応用、医療材料の特徴と問題点などについて深い知識の習得を目的とする。			
個別行動目標 SBOs: 1) 形成外科学の概念を理解し、各自の専門分野に繋げる。 2) 形成外科の対象疾患と治療法を理解する。			
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 E-6			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
レジュメを LACS に掲載し、パワーポイントを用いた講義を行う。			
授業内容			
1 回目 創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料 2 回目 形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用			
キーワード			
教科書・教材・参考書 標準形成外科学 第7版:平林慎一・鈴木茂彦・岡崎 睦 編集、医学書院 TEXT 形成外科学 第3版:波利井清紀 監修、南山堂			
成績評価の方法・基準等 出席率及びレポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。			
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目 ・榎山 和也(第1回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料について教授する。 ・岩尾 敦彦(第2回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用について教授する。			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	3	水	I	創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料	檜山	講義室3A
2回	12	10	水	I	形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用	岩尾	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 月・		必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084541			
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992			
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (小児科学)/(Relational medicine , Pediatrics)			
対象年次 3年次	講義形態	講義形式	教室	講義室 3A
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部		科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	伊達木澄人(だてき すみと)、橋本邦生(はしもと くにお)			
授業の概要				
小児は身体が単に小さいだけでなく、様々な生理的な特徴を持っています。その小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようにすることを目標とします。				
授業到達目標				
一般目標 GIO: 小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようにすることを目標とします。				
個別行動目標 SBOs: 小児の特徴がわかり、救急処置について理解する。 小児の成長のメカニズムと成長障害について理解できる。 小児によく診られる感染症、染色体異常(ダウン症など)、骨系統疾患などの疾患について理解できる。				
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識				
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法)				
プリントとPC プロジェクターを用いて解説を行う。				
授業内容				
1 回目 小児の身体的特徴、成長と発達について理解を深める。 2 回目 子どもの救急対応について理解を深める。 3 回目 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、染色体異常症、骨系統疾患について学ぶ。				
キーワード	小児の特徴、救急処置、成長、発達、ダウン症、感染症			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準小児科学(医学書院)			
成績評価の方法・基準等	3回の講義について筆記試験もしくはレポートで評価する。再試験は1回のみ行う。 出席率、追試験、は学部規則に沿って行う。 再試験は1回のみ行う。			
受講要件(履修条件)				
備考(学生へのメッセージ)	小児を診るうえで重要な項目であるので復習をしっかりとすることが望ましい。			
実務経験のある教員による授業科目	・伊達木澄人 (第 1、3 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 小児の身体的特徴、成長、発達、小児疾患(感染症、染色体異常症、骨系統疾患)について教授する。 ・橋本邦生(第 2 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 小児の救急対応について教授する。			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	月	IV	こどもの特徴・成長発達 小児の身体的特徴、成長と発達について理解を深める。	伊達木澄人	講義室3A
2回	10	6	月	IV	こどもの救急 子どもの救急対応について理解を深める。	橋本邦生	薬学部 講義室1C
3回	10	20	月	IV	こどもの疾患 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、染色体異常症、骨系統疾患について学ぶ。	伊達木澄人	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 月・	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084542		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (産科婦人科学) / (Relational medicine , Obstetrics and Gynecology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	川下さやか、小松菜穂子、梶村慈、三浦生子		
授業の概要 産科婦人科学は、生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍学および女性医学の 4 領域に大別される。本科目では、それぞれの領域における「基本的知識」の学習に主眼をおく。 ○婦人科腫瘍医学 女性性器の発生に関する基本的知識を修得し、各腫瘍における疫学、組織像について最近の話題を含めて学習する。 ○周産期医学 妊娠・分娩のプロセスを理解し、その異常について学習する。 ○生殖医学 受精と着床に関する基本的知識を修得し、不妊治療を含む生殖補助医療の最新の話題も含めて学習する。 ○女性医学 女性のライフステージの中で起こりうる疾患を理解し、健康管理に必要な知識(予防医学)を学習する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍医学、および女性医学についての基本的知識を修得する。 個別行動目標 SBOs: 1) 女性生殖器の解剖ならびに生理を理解する 2) 性周期、卵子の発育から妊娠の成立過程を理解する 3) 妊娠経過、正常分娩とその異常について理解する 4) 婦人科疾患、特に婦人科腫瘍について理解する 5) 女性のライフステージとヘルスケアについて理解する			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 講義形式で行う。スライドを中心に講義し、適宜プリントの配布等を行う。			
授業内容 1 回目 婦人科腫瘍医学 女性性器の発生学とその異常(良性腫瘍、悪性腫瘍) 2 回目 周産期医学 妊娠から分娩までのプロセスとその異常 3 回目 生殖医学 受精、着床のプロセスとその異常 4 回目 女性医学 女性のライフステージとヘルスケア			
キーワード	受精、着床、不妊症、妊娠、分娩、胎児、腫瘍、病理像、女性のヘルスケア		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験を実施する。 100 点満点で 60 点未満を不合格とする。 再試験は 1 回のみ行う。		
受講要件(履修条件)	特にない。		
備考(学生へのメッセージ)	生命の誕生からその終焉までを診る学問である。生殖や妊娠には倫理的問題が関わる場合も少なくない。新聞などのニュースでこれらの問題について触れ、そのことについて自分なりに考えることが重要である。		
実務経験のある教員による授業科目	・川下さやか(第 1 回目)/長崎大学病院における診療業務/腫瘍医学に関する基本的知識を教授する。 ・小松菜穂子(第 2 回目)/長崎大学病院における診療業務/周産期医学に関する基本的知識を教授する。 ・梶村慈(第 3 回目)/長崎大学病院における診療業務/生殖医学に関する基本的知識を教授する。 ・三浦生子(第 4 回目)/長崎大学病院における診療業務/女性医学に関する基本的知識を教授する。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	27	月	IV	婦人科腫瘍学 女性性器の発生とその異常(良性腫瘍、悪性腫瘍)	川下さやか	講義室3A
2回	11	4	火	IV	周産期医学 妊娠から分娩までのプロセスとその異常	小松菜穂子	講義室3A
3回	11	10	月	IV	生殖医学 受精、着床のプロセスとその異常	梶村慈	講義室3A
4回	11	17	月	IV	女性医学 女性のライフステージとヘルスケア	三浦生子	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 木・ I	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084543		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ (泌尿器科学)/(Relational medicine Ⅱ, Urology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/ オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/ 歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	大庭康司郎、荒木杏平、中村裕一郎		
授業の概要及び位置づけ			
腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。まず、1 回目は総論として腎・泌尿器の解剖と機能および症候と検査法について講義する。2回目は一般的な泌尿器科疾患として、頻度の高いものを講義する。3回目は泌尿器科で特に主要な疾患である泌尿器腫瘍の診断と治療について講義する。これらを通じて、泌尿器科診療の概要と実態を学び、最終的に泌尿器科学の重要性を理解し、説明できるようになることをめざす。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。 個別行動目標 SBOs: 1.腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる。 2.腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。 3.腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。 4.主要疾患の治療法を概説できる。			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
スライドとプリントを使った講義。			
授業内容			
1 回目 腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。 2 回目 泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる。 3 回目 泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる。			
キーワード	泌尿器科学、泌尿器科腫瘍、腎・尿路		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 泌尿器科学(メジカルビュー社) 2. 標準泌尿器科学(医学書院)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。 評価で不可の場合は再度のレポート提出または口頭試問とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	できるだけ歯学や薬学の領域でも役に立つ講義内容にします。		
実務経験のある教員による授業科目	・荒木 杏平(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。 ・中村 裕一郎(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。 ・大庭 康司郎(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	20	木	I	腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明 できるようになる。	荒木杏平	講義室3A
2回	11	27	木	I	泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる	中村裕一郎	講義室3A
3回	12	4	木	I	泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフロー が説明できるようになる	大庭康司郎	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 水	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084544		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (精神神経科学)/(Relational medicine , Neuropsychiatry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/ オフィスアワー 歯学部教務委員長 /gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/ 歯学部学務係 /095-819-7613/9:00 ~ 17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小澤寛樹・今村明		
授業の概要			
プライマリケアでも重要で歯科領域において認められやすい精神と行動の障害に関する症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて学ぶ。(不安、うつ、統合失調症、認知症、小児・思春期における精神障害など)			
授業到達目標			
一般目標 GIO:		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
歯科領域にとって必要な精神科疾患の概要を紹介し、疾患及び罹患した患者への理解を深める。			
個別行動目標 SBOs:			
1)精神現象の複雑さを知り、患者との十分な心のふれあいの大事さを理解する。		【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識	
2)プライマリケアにおける精神医学的症候の把握に必要な情報を知り、精神障害への理解を深め、偏見・差別の軽減に努める。			
対応するディプロマポリシー			
DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
スライドや VTR などを利用しながら講義を行うが、受講学生の授業への積極的参加を期待して討論を行う。			
授業内容			
1回目 「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症候」			
メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説			
統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療			
2回目 「子どもにみられる精神障害」			
小児・思春期における精神障害を中心に、症候や診断、治療について解説する			
キーワード			
教科書・教材・参考書		教科書 なし 参考書 1. ICD-10「精神・行動の障害」マニュアル(中根充文、岡崎祐士著、医学書院、1994) 2. 標準精神医学(野村総一郎、樋口輝彦著、医学書院)	
成績評価の方法・基準等		出席とレポートにより評価する。 再試験:無	
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)		具体的な症例を挙げながら、精神科と歯科、薬科がどのように結びついてくるのか考察を深めていきます。	
実務経験のある教員による授業科目		・小澤 寛樹 / 長崎大学病院における診療実績 / 歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する。 ・今村 明 / 長崎大学病院における診療実績 / 歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する	

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	17	水	I	「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」 メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説 統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療	小澤寛樹	講義室3A
2回	1	7	水	I	「子どもにみられる精神障害」 小児・思春期における精神障害を中心に症候や診断、治療について解説する	今村 明	講義室3A
3回	1	14	水	I	隣接医学Ⅱ まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2025 学期 4Q	曜日・校時 水・	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号	25084545		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 (脳神経外科学) / (Relational medicine , Neurosurgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/ 歯学部学務係/095-819-7613/9:00 ~ 17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田光一、氏福健太		
授業の概要			
歯科診療に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患に関して概説し、歯科、口腔外科領域に隣接する頭頸部の外傷、脳卒中、腫瘍、疼痛性疾患の病態、診断、治療法を学び、鑑別診断ができる能力を養う。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 頭部外傷、脳卒中などの脳神経外科的救急疾患についての基本的知識を得る。 [平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム]			
個別行動目標 SBOs: 1)頭頸部の腫瘍につき理解する。 [E-6] 医師と連携するために必要な医学的知識 2)三叉神経痛に対する脳外科治療について理解する。			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
主として PC プレゼンテーションにて行う。			
授業内容			
1 回目 頭部外傷、脳卒中など脳神経救急疾患について概説する。 2 回目 三叉神経痛に対する脳外科治療について概説する。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	出席率、レポート等により行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	急患等の対応のため、講義担当者が変更になることがある。		
実務経験のある教員による授業科目	・吉田 光一(第 1 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科領域に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患について病態、診断、治療法を教授する。 ・氏福 健太(第 2 回目) / 長崎大学病院における診療業務 / 歯科領域に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患について病態、診断、治療法を教授する。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	26	水	V	頭部外傷 頭部外傷、脳卒中など脳神経外科救急疾患について概要する。	吉田光一	講義室3A
2回	12	3	水	V	三叉神経痛 三叉神経痛に対する脳神経外科治療について概説する。	氏福健太	講義室3A

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084551 DNGD33231992 隣接医学Ⅲ(人類遺伝学)/(Relational medicine Ⅲ, Human Genetics)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	吉浦 孝一郎		
授業の概要			
歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。 (分子)遺伝学は、メンデルにより導入された抽象的な概念としての遺伝因子(メンデルのいう要素)が導入され、その具体的物質的基盤である分子の正体(DNA など)が判明することにより爆発的に発展した。遺伝学は、ゲノム情報の違いや変化(多様性、変異、進化)、遺伝情報の伝え方(伝達、形式)、遺伝情報の働き方(現象)などを扱う。これらは生命現象の基本であるため、遺伝学の素養を身につけることは生物学やその応用としての医学や歯学を学ぶためには必須である。また、ゲノム情報は医療に利用される時代が到来しており、医師・歯科医師に必須の知識となっている。ゲノム、DNA、遺伝子の構造から遺伝の仕組み、遺伝形式、遺伝子変異と疾患、多因子疾患の特徴およびゲノム医学について学ぶ。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
個別行動目標 SBOs: 1. 遺伝子の概念やゲノムの概念について説明できる。【C-2-2】遺伝子と遺伝 2. 遺伝学がどのような学問であるのかについて説明できる。【C-5-1】病因論と先天異常 3. 遺伝学的疾患分類について説明できる。 4. 遺伝子の構造と遺伝子発現システムについて説明できる。 5. 遺伝の原理について説明できる。 6. 遺伝子変異や多型についての概略やそれらを説明できる。 7. 多因子疾患について概略を説明できる。 8. ミトコンドリア遺伝やエピジェネティクスについて説明できる。			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 教科書は指定せず、授業計画に沿った説明やプリント、スライドで授業を進める。			
授業内容 1 回目 分子遺伝学の基礎、メンデル遺伝の基礎 2 回目 メンデル遺伝病 3 回目 染色体異常、ミトコンドリア病、エピジェネティクスとその異常 4 回目 遺伝性疾患の分子病理 1 5 回目 遺伝性疾患の分子病理 2 6 回目 集団遺伝学の基礎 7 回目 多因子疾患 8 回目 まとめ			
キーワード	ゲノム、ミトコンドリア、遺伝形式、遺伝子変異、多因子疾患、多様性		
教科書・教材・参考書	教科書の指定はない。但し、参考書として以下を推薦する。 遺伝医学(羊土社、渡邊 淳(著))、遺伝医学への招待(改訂第6版、南江堂)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験で評価する。点数が 60 点以上を合格とする。再試(1 回)あり。なお、本試で 30%以下の得点は、再試対照としない。 8 回の講義のうち、3 回欠席すれば自動的に失格とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	基本的知識は必要だが、その背景にある論理を理解してほしい。授業で説明した内容は、その都度復習しておくこと。高校生物未履修者は、該当分野を自習しておくこと。用語を覚えることだけでは、試験に合格することは難しいと考えられる。最も効率的な勉強法は、授業をよく聞いておくことである。 授業の進行具合に応じては、授業内容が変更されることもあるが、その都度指示する。		

実務経験のある教員による授業科目	吉浦 孝一郎／病院での診療経験／診療経験を活かし、遺伝学に関する講義を実施する。
------------------	--

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	木	1	分子遺伝学の基礎, メンデル遺伝の基礎	吉浦	講義室3A
2回	10	9	木	1	メンデル遺伝病	吉浦	講義室6B
3回	10	16	木	1	染色体異常, ミトコンドリア病, エピジェネティクスとその異常	吉浦	講義室3A
4回	10	23	木	1	遺伝性疾患の分子病理1	吉浦	講義室6B
5回	10	30	木	1	遺伝性疾患の分子病理2	吉浦	講義室3B
6回	11	5	水	3	集団遺伝学の基礎	吉浦	講義室3A
7回	11	13	木	1	多因子疾患	吉浦	講義室3A
8回	11	18	火	6	隣接医学Ⅲ まとめ	吉浦	講義室3A

研究科目（3 年次生、4 年次生、5 年次生、6 年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論	(3 年) 308
基礎歯学研究	(3・4 年) 310
臨床歯学研究概論	(4 年) 313
歯学研究	(5・6 年) 316

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 金・4～6 or 6～8	必修選択 選択	単位数 1
科目番号	25104901		
科目ナンバリング・コード	DNDR33441993		
授業科目名/(英語名)	基礎歯学研究概論/(The Outline of Basic Dentistry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 別途掲示	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-77613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、片瀬直樹、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、		
授業の概要			
各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介し、今後の研究活動の動機づけとする。 基礎歯学研究における配属先研究室を選択する。			
授業到達目標			
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
一般目標 GIO: 本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。			
個別行動目標 SBOs: 本大学院の基礎歯学分野の研究内容を説明できる。 A-8-1)			
対応するディプロマポリシー			
DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。 DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。 DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
各基礎系分野担当教員のオムニバス形式で講義を行う。			
授業内容			
1 回目 歯学研究コース概要、研究倫理に関する講義(吉村教務委員長) 2 回目 顎顔面解剖学: 歯科人類学の基礎と応用 3 回目 硬組織発生再生学: 骨の幹細胞の運命追跡: 骨の成長、再生、発がんに関わるユニークな幹細胞の研究について 4 回目 口腔病理学: 病理学と病理診断について 5 回目 口腔病原微生物学: 歯周病細菌の病原因子(プロテアーゼなど)について 6 回目 歯科薬理学: エンドソーム・リソソームの機能と病態および歯科への応用について 7 回目 生体材料学: 歯科用生体材料の物性(機械的性質や物理的性質、化学的性質)について 8 回目 分子腫瘍生物学: 遺伝子改変マウスを用いた腫瘍発症メカニズムの解析について 9 回目 フロンティア口腔科学: 免疫応答と口腔疾患について 10 回目 加齢口腔生理学: 体内時計の神経生理メカニズムに関する研究について			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後 1 週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 2/3 以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。		
実務経験のある教員による授業科目			

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	木	3	(歯学研究コース概要・研究倫理について) 歯学研究コース履修に関する説明と質疑応答を行い、研究倫理に関する講義を行います。	吉村 教務委員長	講義室6B
2回	4	11	金	4～6	(顎顔面解剖学) 歯科人類学の基礎と応用、およびその成果の一部について紹介すると同時に、今後の実習内容について紹介する。	小山田	別途掲示
3回	4	18	金	4～6	(硬組織発生再生学) 骨の成長や再生、発がんに関わるユニークな骨の幹細胞について、最新の研究内容を紹介し、今後の実習内容について説明します。	松下	
4回	4	25	金	4～6	(口腔病理学) 口腔疾患の組織学的診断と基礎研究、及び口腔病理学でのコースの概要を説明します。	片瀬	
5回	5	2	金	4～6	(口腔病原微生物学) 歯周病細菌の病原性に関するこれまでの当教室の研究内容を紹介し、コースワークでの今後の実験研究内容について紹介します。	内藤	
6回	5	23	金	6～8	(生体材料学) 歯科用生体材料の各種物性と臨床適応について、これまでの生体材料学分野の研究内容の紹介、および今後の実験研究について紹介します。	渡邊	
7回	5	30	金	6～8	(分子腫瘍生物学) 分子腫瘍学に関する最新の知見を紹介し、今後の実習内容について説明します。	伊藤	
8回	6	6	金	6～8	(フロンティア口腔科学) 感染症やアレルギー疾患など免疫が関わる疾患について当分野の研究成果を紹介し、今後の実習内容について説明します。	門脇	
9回	6	20	金	4～6	(加齢口腔生理学) サーカディアンリズムを制御する神経回路に関する研究を紹介し、今後の実験研究内容について説明します。	中村	
10回	6	27	金	4～6	(歯科薬理学) リソソームの機能とその疾患について、これまでの薬理学分野の研究内容の紹介、および今後の実習内容について紹介します。	筑波	

年度 2025 学期 通年	曜日・校時 3 年次/金・6～8 、 4 年次/月・7～8		必修選択 選択	単位数 5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104902 DNDR33451993 基礎歯学研究/(Basic Dental Research)			
対象年次 3 年次、4 年次	講義形態 実験形式	教室	各基礎系研究室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類	研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00				
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、片瀬直樹、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、佐藤啓子、小野寺貴恵、住田吉慶			
授業の概要				
配属先の基礎系研究室で研究を行う。積極的に活用して、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とすること。指導の一貫で、海外大学研究施設におけるフィールドワークや講義の聴講を実施することがある。				
授業到達目標				
一般目標 GIO:		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】		
配属先の基礎歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加する。				
個別行動目標 SBOs:				
配属先の基礎系研究室で歯学研究活動を行うことができる。		A-8-1)		
対応するディプロマポリシー				
DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。				
DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。				
DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。				
授業方法(学習指導法)				
各基礎系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。				
授業内容				
○ 3年次と4年次で実施日が以下のとおり異なるので留意すること。				
3年次: 前後期の金曜日 6～8 校時(基礎歯学研究概論受講後に開始)				
4年次: 前後期の月曜日 7～8 校時				
※実験など内容によっては回数や時間数が増える場合もある。				
○ 各コース内容に関しては次項の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。				
(コース)				
1.顎顔面解剖学研究:形質人類学における歯の形態学的アプローチについて学習する。				
2.硬組織発生再生学:発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨の発生、再生、がんに関する研究を行う。				
3.加齢口腔生理学研究:体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。				
4.口腔病理学研究:病理標本の作製実習、臨床症例の病理組織学的検討、疾患の分子生物学的解析を行う。				
5.口腔病原微生物学研究:細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定				
6.歯科薬理学研究:実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定				
7.生体材料学研究:歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定				
8.分子腫瘍生物学研究:遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。				
9.フロンティア口腔科学研究:細胞生物学・分子生物学的手法、遺伝子改変動物を用いて、免疫・炎症に関する研究を行う予定。				
10.硬組織疾患研究:口腔組織の再生医療について、細胞培養や移植実験などを通して幹細胞を用いたアプローチについて学習する。(R4年度より先進口腔医療開発学となるため新規受入予定なし)				
キーワード				
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材			
成績評価の方法・基準等	主に発表内容、 レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。			

受講要件(履修条件)	・学校推薦型選抜者以外で歯学研究コースの履修を希望する者は、2 年次後期の所定の期日までに学部長に履修希望届を提出し、許可を受けなければならない。 ・履修希望届の提出があった者に対して教務委員会が選抜のうえ学部長に推薦し、学部長が許可する。 ・基礎歯学研究概論を受講後に希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限が掛かる場合も有ります。 ・全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	片瀬直樹／長崎大学病院での病理診断実務経験／病理診断科・病理部での検体処理の見学。同施設の症例を用いた標本作製と組織診断の体験。組織試料を用いた研究を行う。

コース表

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	形質人類学における人骨資料や生体資料からのデータ採取、解析、結果の解釈などについて学習する。 <u>定員は1名の予定</u>	3年次/金6～8 4年次/月7～8	小山田
2	硬組織発生再生学研究	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 <u>定員は1～2名の予定</u>		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 <u>定員は2名の予定</u>		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 <u>定員は1名の予定</u>		片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 <u>定員は1～2名の予定</u>		内藤
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 <u>定員は2～3名の予定</u>		筑波 坂井 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 <u>定員は2名の予定</u>		渡邊 阿部 バラネザハド
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。 <u>定員は2名の予定</u>		伊藤 大谷 上野
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。 <u>定員は2名の予定</u>		門脇 佐藤 小野寺

※4年次について、10/20(月)及び10/27(月)は「総合歯科学Ⅰ」を受講すること。